

翻刻『芙蕖館日記』(六)

芙蕖館日記研究会

(表紙)

寛政九丁巳歳

大日記上

正月吉祥

芙蕖館
執事

(遊紙 一オ〜二ウ)

〔一月〕

十日 朝西南大風雨、五ツ時ト晴、終日南風、夕爲北風、暖氣甚敷、氷皆解。

今日大人、宵之内御生誕日ニ被爲當、御賀有之候。御吸物、御取肴、御鉢肴、御乾肉。入夜酒止。外無事。

十一日 朝曇、餘寒甚。昼ト少晴、終日北風強、薄氷ア

大人御宿。家兄、日比谷門中牧野笠間侯より林祭酒、

小幡侯、柳生侯御年始御勤被成候。勘助在宅。前日十

日、榊原早瀬様よりあら玉之御使参り候。大人、太祖君

御初、銘、御年玉有之候。

〔オ三〕

十二日 朝、快晴。北風強、前夜より吹通、終日不止。

水厚餘寒甚。路次凍不解。

大人、御年始御勤被爲成候。御場神田橋より下谷堂藤津

侯、下谷辺不殘御還路。浅草堀椎谷侯、呉服橋堀老侯等

御出合被成、夫、椎谷侯奥之間と御通り被爲成、御令聞

に初謁被爲成候。夜五ッ時過御還宿。圓純師被見、年

始ニ付酒出。家兄、勘助在宅。

十三日

〔ウ三〕

(四オ)五ウ 白紙

二月 小

朔日 今日時晴時曇、夜六ッ半比、雨段々大雨、夜半

休。

今日、素讀始并御講釈始。八ッ時ニ相濟申候。七ッ時

白杵世子と参。尤昨日元之助同道ニ而可参由、申来ル。然

る所書役書損ニ而勘助様も御同道可下旨、今朝、稻葉七

右エ門と申来ル。右故三人共参ル。膳部二付菓子等出、

夫、御酒也。尤、始不相替之由。屠蘇、雜煮濟候而飯出

ッ。酒出。前ニ蛤之吸物而酒出ッ。酒濟候而こひ茶、菓

子、煮茶濟候而吸物出、夫、大ニ酒なり。元之助大醉。

夜八ッ時帰ル。三人共駕籠出ッ。兩人は断候而門とかへ

す。今日すへ風呂たて申候。白賁と掃除来ル。

二日 快晴、春暖。

素讀如例。大人御在宿。元之助、昨日之礼ニ稻葉七

右エ門、小倉五郎八世子(兩人)、(オ六)付家長屋迄参ル。夫、河田安

右エ門方へ弔ニ参ル。是ハ安右エ門実母、當年八十三歳

ニ成候所、正月廿二日ニ病死故、右之弔也。久野咄、自

分彫刀之印譜二本見せ申候。是ハ取在り 夫、本多と参ル。

今日、始申候。暮六ッ半後帰ル。勘助、今日、林祭酒

方之沢五郎兵衛方に参り申候。是は来ル六日、釈奠ニ付
稻葉侯藩士四人、拜見申込有之故、頼ミニ参り申候。尤、
昨日右頼之筋、沢五郎兵衛迄申遣所、留主故、先方より返
事、氣之毒故、勘助参り申候也。然ル所、随分取捨可申
出來之趣也。夫より柳世子に参ル處、御登城故御断也。

三日 曇、甚寒シ。七ツ時比少雪、夜快晴。

素讀如例。大人、濱町岩村世子御断来ル故、御在宿。

元之助、天（ハシ）見合候所、各別雨共見へ不申故、昼比より

加茂に参ル。夜五ツ時帰ル。加茂より榊原に人遣ス。榊

原、此節不快故、見舞、且藥方より聞、下宿之事杯申遣ス

也。勘助在宿。

四日 快晴。但寒不堪。

素讀休。大人、元之助、青山に参ル。今日より漢書、會讀

始ル。趙充國方中より也。尤講釈は先月十九日（正月）始ル。

其日侯も麻上下、世子も同し。是は當年より始り也。諸子

同也。大人、予も麻也。右故今日は常服ニ参ル所、

侯之居間ニ三方鬘斗出在リ。相手之面々つき上下也。

侯、世子もつき上下也。此方共常服故、相手之者達つき

上下ト爲思候。全躰前ハ侯之居間稽古初ハ、侯つき上

下、世子同。大人、予、相手諸士、麻上下之処也。夫故

来年よりも、講釈初有之而も、漢書等之居間稽古初之節

故、小紋之うらつけ上下ニ黒紋付小袖可着也。濟候而も

例之鬘ハ出不申候。

旧冬稽古定さめも落間之講釈ニて納り申候故ニヤ
出不申候。當年正月十九日も不出、今日も出不申

候。大人に例之通駕籠出申候。夜五ツ半前帰リ申候。勘

助、小幡侯より米津（オ）侯に参リ申候。尤、小幡は三日

ニ人来リ、元之助、勘助達各ニ而四日ニ稽古（ハシ）被致度

旨申来ル故、今日勘助参リ申候。梶川伊右エ門方に焼

酒少贈。且東遊記三、四、五、三冊借リ申候。是ニ而濟

ム也。

五日 曇終日也。昼迄甚寒シ。ハッ過り南風、大曇。甚暖也。

素讀如例。大人、濱町岩村世子、三日之替リ今日四ツ

時ニ御出宅御出。ハッ時ニ御帰宅被遊候。元之助儀礼（夫が御在宿）

之會。勘助、森川侯に参ル。明朝、釈奠、稻葉藩断故、

入夜、加藤右源次方に同道可仕段申遣ス所、参リ度由

にて返事在リ。元之助、八日一本松を可参由、新海清
右ニ門方迄申遣ス。〔ウ七〕

八日 曇。暮六ツ前夕雨。入夜雪雜。

讀書如例。大人、今日當年始而稲垣侯に御出被遊候。尤
年始ニ御出無之故、麻上下、服紗小袖ニ而御出被遊候。

例之通御講積。替リ申候事無之。元之助、一本松成羽侯
に八ツ半時過比夕参ル。當年ニ入始而也。裡付つき上下
着、公も同様。逢濟候而直ニ肩ヲ取申候而、曲室ニ而會
讀有之、漢書ト杜律七言律講二首也。醉態且雨雪故、かご出
申候。四ツ時帰ル。尤今朝史記會讀等致。年始客、酒な
と出し大ニ忙シ。勘助在宿。

九日 晴、餘寒不堪。夜曇。

青山如例。大学解之御講積。侯御留主、世子斗。七ツ半
比濟〔ウ八〕。大人は栗〔ウ九〕十五郎殿方を御出。元之助は伊藤

族殿に参リ醉帰。夜五ツ時先ヲ出、四ツ少前帰ル。勘
助、八丁堀に参。尤當年ニ入始而参故、肩衣つけ参ル。

先方之公は麻上下之由也。榊原ヲ使来ル。當月廿三日ニ
下宿之事申来ル。本多伊豫守様ヲ富永元誠来ル。當月

最早寡君御免も有之、右之事故、外出も餘リ無之故、又
々十三日ヲ毎月三度ツ、大人、元之助ニ参リ呉候様被

命候故、参ル由口上書認帰リ申候。十、今日文庫二ツ新ニ
はりたて〔ウ十〕出来。宇和侯ヲ明日大人御出之儀断申来ル。

十日 朝ヲ晴 初午之前日にて處々大鼓かミニなりのことし。大
素讀如例。大人、森川侯ニ朝四ツ時ヲ御出被遊候而八ツ

過時御帰リ。〔ウ八〕字和侯御断故、御出無之。元之助、
小幡侯世子、入當年、今日相始。迎遅九ツ過ニ来ル。夫

ヲ参リ候而、又木挽町ニ参ル。初午之前夜〔ウ九〕而手間取、
夜四ツ前帰ル。小はたハこもんの肩衣ニ棧留袴也。勘

助、麻田公子、如例。神戸侯ヲ歳暮使来ル。大人ト元之
助〔ウ十〕袴〔ウ十一〕壹枚ツ、也。

十一日 初午、晴天、然し餘寒不堪。

大人、御講釈如例。昼九ツ半少過相濟申候而元之助、勸助共御一所ニ今井谷積翠園之詩會ニ參ル。帰路、松平十郎右エ門殿御宅を被御招被成候而又御酒等出、ハツ半過御出宅、夜九ツ時御帰被成候。おてい始、有馬侯の初午園遊見物ニ參ル。榊原が人來ル。來ル廿三日ニ下宿之由。青鳧かた身來ル。

十二日 朝曇、夫が風出晴。

〔オ九〕

讀書如例。大人御在宿。元之助、今日稻垣信濃守殿參ル。尤、入當年ニ始而也。小紋之裡付肩衣ニ棧留袴着ス。

然ル所先方を參リ申候へは、今朝馬之稽古後、小々腹痛。夫が予參リ申候迄追々痛、次ニ而暫見合具候様ニト

申事故、暫待、昼比ニ相成候處、兎角痛去かね候間、無申訳候へ共、延引致呉候様ニト申事ニテ食事出、例年之通始故、例膳贈付酒肴出ツ。夫が河田安右エ門方を參ル。

少々談合之筋有之、青山百人組互力、根本藤吉郎方談故事ニ付而也。河田ニ而今日稽古。印譜二、大坂、前川虚舟

著日本之古印ヲ外、ト申御疊大工之著之鎌倉志ニ漏申あつめたる也

候分ヲ探リ、横帖二冊ニ致たるを見申候。夫が本多を參

□（オシ）そばふるまひ、夜四ツ少前帰ル。勸助、山崎侯を入當年始而參。□（ウ九）つきかた衣。酒出ツ。今日、大人藝侯

之定日之所断。廿二日□（オシ）御替日。依而居風呂たつ。萬藏掃除ニ來ル。

十三日 南風、飛沙塵、日色爲之変、夕七ツ過休ム。

素讀如例。大人、今日始而神戸侯を被爲入候。九日御留主ニ申來ル故也。

四ツ少前御出宅。御迎かこ不來ル。御出之上、以来共定かこの事御申被成候故、御帰かこ出申候。當年は早春正

月晦日迄神戸閉蟄故、御年始ニ御出無之故、御服紗小袖ニ絹之御上下也。御帰リニ藩にもちよく御より被成

候相手引込たり。三傳之會無之、今日が外ニ荀子始リ申候。尤説苑は有之候。以来は大人七日、廿七日、元之助

十七日、月ニ三日。且昼食前ニ三傳、荀子相しまひ、昼食後説苑ト申事ニ極リ申候。元之助、今日加も□（オシ）例日

之處、餘リ南風つよく、無人故不參。勸助、小はたが八

丁ほりゝ參リ、如例暮過歸ル。 渋谷之年寄元右エ門

(オ) 當月六日ニ死申候由ニ付、今日くやミ使遣ス。春

日野、なま揚豆婦来。 かんもととき十入一重遣ス。

十四日 朝少曇、昼比風、夕七ツ比少雪、寒不堪。

讀書如例。 大人、昨夕御痔疾大ニ發シ申候間、今日

御在宿。 御起居被成候事難ク御平臥。 尤昨夕ト今日、

予、秦瓦防風湯調上仕候。 餘リ難儀故、昼後、西良仲

人遣、膏藥取ニ被遣候。 留主故弟子共調上。 元之助、

昨日之替リニ今日加茂ニ參ル。 昼後八ツ時出、夜五ツ

比歸ル。 勘助、米津世子如例。 青山十六日御客有之

故、兩人出申候ニ不及由申来ル。 大人、山崎侯御定

日之處故御断被仰遣候。

十五日 時晴時曇。 此節日夜少ツ、火事在リ。 (ウ)

讀書如例。 大人御同前故、今朝西良仲煎藥取被遣

候。 □膏藥も又一具申遣候處、煎湯十貼、膏藥二具来。

色ハ黄色之油藥也。 大人、今日深川公子定日之處、

欽助に頼御断被遣候。 元之助、十七日用事有之ニ付、

今日ふりかへ、祥雲寺參ル。 そはふるまひ有之候。

勘助在宿。 瀧村六郎左エ門方ニ兼而約し置申候松一

本、今日人遣シもらひよせ申候。 今日良仲見舞申

候。

十六日 昨夜雨ト雪。 今朝ニなり大雪。 暮前休ム。 小

積。 寒甚。

大人追日少ツ、御快。 元之助在宿。 勘助同。 今日、十五

日儀礼之會、子騰用事ニ付延引。 今日讀書候。 餘リ寒甚

故、酒少出申候。 外無事。

十七日 朝晴、寒風昼比北風甚。 暮前休。

素讀如例。 大人甚御快キ方也。 今日小幡御定日之處、

昨日御断(オ)被遣候。 福田不快故、先方先達而断

也。 元之助、神戸參ル。 今日當年始故、大人十三日ニ

御出之通リニ致申候而參リ申候。 くわしなとも有リ、帰

り申候而、龍土伊達而約日之處、迎不来故不參。 尤神戸

より迎かこ来ル。 四ツ時參リ七ツ過歸ル。 勘助、柳世

子如例。

十八日 晴 朝寒、昼は南風暖、催雨色。薄暮弥雨色。夜半

致晴。

讀書如例。大人、今日も御とこ上ヶ御全快。尤當年ニ入
今日始而松平大膳亮殿御會始御約日故、御出勤被成候而
昼後八ッ半比ニ御出宅。小紋之御うらつけ上下也。夜四
ッ時御帰宅。元之助、龍土伊達侯も迎參参リ申候。七
ッ時出、夜四ッ半後帰ル。勘助在宿。太母君、おみな
御つれ被成候て、廣尾をつくし取ニ昼食後も御出被成
候。また少早しといへ共、来ル廿一日、太祖之共積のた
めなり。」(二)少々御つみ御かへり。米二俵、土器町丁
子やととのへ申候。両ニ九斗四舛。米ハ中とほりな
り。わるくなし。元之助、龍土より御國の素鰯ト申、
ふりの如キ魚のさしみ持參致候。

十九日 朝寒ッ。四ッ半比より好大南風、揚沙塵、黒雲
今日彼岸。出、伴風花等ふる、甚暖。夕八ッ比より北風

甚はけし。

大人、元之助、青山如例。尤大人、塗中静ニ被爲入御

痔疾ニ不礙、先御痔疾は亘敷候へ共、御腹中等痞減劑

而已。大学解御学積本文而已。自欲古之明明徳於天下

之章、右第二章積明徳ニて之章迄被成候。此方四ッ

過御出宅。九ッ過青山も御出。落間七ッ比濟。夫も家

老能勢軍兵衛方も御出之御約束之處、断ニ倉西貞之

進御招キ申候故、御出被成候。元之助も被招参ル。

夜九ッ時帰宅。烈風揚沙塵おもてをむくへきやうもな

し。まいりかけより風出、大キニ難儀。往」(二)来同

様。勘助八丁ほりに參、如例。しふやのもと右エ門

方も□強飯一重来ル。むすこか参りたる様子也。十出で

挨拶いたす。米津侯之藩、人見覚右エ門方も黄強飯一

重、志之爲来ル。是ハ先達而先月廿二日之朝急症ニ而

即死致候妻之四七日だとなり。内瀬宗元参リ書判頼

ム。急ニ入用之由。勘助拵へ遣し申候。英ノ字也。名乗

如此。

二十日 朝曇。昨日も北風烈々、終夜不止。今日暮六ッ

半比ニ半落申候。然ッいままた余ほと風在。寒不

堪、わた入三ツニ綿入羽織着用すれともまた
〳〵〳〵寒シ四ッ過も又出風。

讀書如例。大人、森川より御帰リ被成候而宇和侯に御出
被遊候。夜四ッ時少過御帰宅。侯之御相手は御痔疾故無
之候。元之助、小幡世子も柳世子如例。四ッ半時出、
夜四ッ時帰ル。(ウ)三 勘助在宿。昨夜八ッ時前、築地鉄
砲洲細川能登守屋敷の書物手跡等之稽古所も出火ニ而、
北風甚烈敷、忽チ大ニもへ上り細川大方やけ候而、隣之
松平縫殿殿屋敷、門斗残り不残類焼、其上海邊之町屋
不残焼失、海ニ而とまり申候。細川殿は去年ふしん致直
し、予カ知候絵師などに十兩ほどか絵を被頼候而、大分
よく出来申候。只今迄一度も類焼無之、屋敷へまかりく
ねり如雨故、立なをしりつはに出来候所、一時ニやけ申
候而小キ長屋一むねのこり申候。尤つけ火之よし也。餘
リ烈風故火熾ゆへに所々一向しまい候間無之よし。予、
築地より帰かけニどこのかかよりあわせニ而なきをり申
候。今夕暮六ッ過ころより青山のいなりなと、深川

等ニ處々ニ火事有之候。今日より畳(オ)三 屋参リ奥四
疊新敷おもてとりかへ跡うらかへし申候。十、本多千
五郎かたへ石すり持参ル。序ニ古今餘材抄五六七九十
合五冊返し申候。七八ト二冊とめ置申候。今日、野上
欽助に日光盃一ツ、豊後献上之巻鮎三ツ被遣候。是は明
廿一日欽助宅ニ而詩會致候ニ付御出被遊候ニ付被遣候。
其上新宅ニ成候而未何も不被遣候ゆへ也。十、硯三ツか
す。白賁も万藏来ル。掃除也。且頼ニ付、金子彦分借
遣申候。是は當暮給金之内也。先日伊勢参宮等ニ付相願
候而是ニ而當年之給金不残かしつかへし申候。外無事。
入夜曇。

廿一日 朝大ニ曇、四ッ半比も晴。夕方大風。暮も休
ム。寒甚。昨夜九ッ半比、余程長キ中地震。今
日正午前地(ウ)三 震。一昨夜築地細川能登守殿
も出火。松平縫殿殿類焼。夜八ッ前も明六ッ時
迄。

讀書如例休日。御講釈如例。昭廿三年、楚囊瓦爲令尹章

同廿五年 迄、唐詩選五律、臨洞庭孟浩然

送平淡然判官迄。榊原の人遣し申候。是は明後廿三日

下宿ニ付挟箱遣し申候。帰りニ豊嶋屋之白酒、醬油取ニ

遣し申候所、御成有之候ニ付被留、不買ニ帰り申候。榊

原の人來ル。挟箱可遣由ニ付而也。今日詩會、野上欽

助主人ニて三人共参リ申候。種々馳走。大人七ツ時御

出、夜四ツ半時御帰宅。元之助醉態。稻垣侯の人來

ル。明日御断也。後日、自是可申上由也。勘助、明日

山崎侯断來ル。畳屋、今日奥新敷一畳取替納戸二畳、

勘□三畳、うすへり二枚半拵申候。是ニ而濟申候。尤、

明日奥新敷四畳取替、裡(オ)三畳取替申候而、納戸

も沓疊うらかへし申候。新敷早場は沓疊ニ付二匁九分

也。へりハ七分ツ、也。食事三度致申候。渡邊彦藏、

(今日)又々講釈ニ参リ申候而仙臺のすしこ贈リ申候。

白かねより使來リ、又々不相替祥雲寺毛せんかりニよこ

し申候間、直首座方ハ手紙認遣し申候。今夕も四ツ谷其

外所ニ火事有之候。

廿二日 朝曇、昼比ハ雨漸々甚敷、入夜風雪。夜半比ハ

甚積申候。春寒不堪、用絮衣三ツ。

讀書如例。大人、小幡侯始而也。小もんのうら付上下

也。七ツ少前御帰宅。夫ハ半過ニ渡邊老侯ハ御出、翼曉

六ツ時御帰宅。元之助、稻垣侯如例。夫ハ本多ニ至ル。

夜四ツ時帰り。風雪甚難儀、酔候て。明々後廿五日、

覺源沙弥一周忌之處、今日とり越(二四)申候而小々誦經

も仕呉候様ニ南一遣頼申候所、幸先方も廿五日は用事有

之候由也(此段廿日ニ申ツかへす)。勘助、昼比迄讀書等用事有之候而、昼

比ハ參詣致申候。金剛經相勤申候由也。下谷武田三右ニ

門殿方ハ覺源志一重遣し申候。牡丹もちなり。先かたよ

り無人之由ニて直ニせんへい二重來ル。備くれ候様ニト

なり。

廿三日 早起。雪四寸ほとつミ候。狂風甚敷、又々雨ニ

相成。四ツ半過ハ追々晴。夕快晴、甚餘寒。

榊原叔母下宿ニ付、讀書明日トふりかへ申候故休。四ツ

半時御下り。婢は甚小女故、餘リ狂風雨故、塗中積雪歩

行難成、ふきとばされん様子故、今日不召連、明日挟箱の中ニ入り来ル筈也。大人、濱町岩村世子と御出。四

ッ時御出ニ而七ッ時御帰宅。元之助、森川侯と参ル。

風雨故かこ来ル。往来也。勘助在〔一五〕宿。

廿四日 朝雨、昼後ト晴。

讀書休如例。未日をふりかへ不申候。大人御在宿。元、

勘〔一六〕共在宿。今日風呂敷建ッ。榊叔、西隣相原に参リ

申候。昨日持参之まんちう土産なから遣し候。今日手み

やけ遣し申候而、夕七ッ時より暮六ッ前ニ帰リ申候。今

日婢挾箱の中〔一七〕入り来リ申候。弱齡ニ而御座候。

廿五日 雨、八ッ半比ト晴

讀書如例。今日は少致申候。大人、元之助青山如例。

勘助在宿。麻田公子に参リ申候。青山ト夜五ッ半時

帰。榊原ト今日人来リ御姫様御痘瘡故、明朝上リ可申由

申来ル〔一八〕〔一五〕ニ付勘助上リ候節之かい物ニ参リ申候。

尤神明前也。甚驚。今日柳叔白金と可参之處、雨天故

延引。西隣之幡場君を招キ申候。七ッ時来リ暮六ッ半頃

帰ル。白金之叔をも御招、見へ申候。

廿六日 晴

讀書少ッ、致申候。大人、山崎侯御断被成候ニ付〔一九〕

廿八日用事ニ付断候故、右之替今日参リ申候。夕七ッ前

出、夜四ッ前帰ル。大人御在宿。榊原之叔〔二〇〕、迎

四ッ半時来ル。九ッ時出宅也。婢トはなかミ一束、女扇

子二本遣し申候。勘助在宿。

廿七日 晴、時々曇春暖南風、可用裕。〔二一〕

讀書如例。大人昨夜中ト御風氣ニ而今朝甚敷熱甚敷、

御腰痛殊ニ甚敷、四肢煩疼只今迄ニ無之御風氣也。御

病ハ正傷〔二二〕見へ申候程之事。右ニ付本多伊豫守殿ト

爲名代元之助参ル。會讀如例。朝四ッ前出、夕七ッ半

過帰ル。尤、今朝御薬式貼上申候。葛根〔二三〕罷帰リ申候

所、弥甚敷御腰痛御堪へ不被成候由故、則麻黄湯ト貼差

上申候。勘助、八丁堀ト柳世子と参如例。元之助、

今日は祥雲例日之處、此間明廿八日ニ替置申候處断来

ル。

廿八日 雨

讀書如例。大人、今朝は御腰痛大分御心能、熱も少、
発、御汗出候而、御小水も濁り申候。前方式貼差上申
候。元之助在宿。勘助同在宿。今日もひみな祭致候而
おひる殿御出也。

「(一六)
ウ六)

廿九日 晴

青山と元之助斗參。落間御講如例。大人今日は余程御
快能被爲入、御熱も半とれ申候。今日も柴桂湯二貼ッ、
御上り被成候。元之助、夜五ッ過帰ル。勘助、麻田公
子如例。夫も米津世子と參ル。

三月 大

朔日 晴ニ時々少ッ、曇。

大人大分御心快候へ共、兎角御熱氣後ト不発、御顔赤ッ
少喘之御氣味ニ而口中粘リ、御小水も少ッ、濁り申候故、
今日は益氣湯ニ加芩連上申候。御講積被成候。ひみな

餅つき申候。柳原と人遣ス。挟箱取ニ遣ス。□^(ムレ)此方^(ムレ)先
日残し置申候衣服遣ス。先も祝儀使来ル。葉六貼預り
申候。三和散ニ消飲丸之合方也。先日見へ申候時も如
此。白賁も万藏来ル。竹二本折申候由也。木ハ夜半起而
ゆすぶり申候故、不折由也。是ハ先日之大雪ニ處ク大木(一七)
竹など折レ申候時之事(オ)元之
助、祥雲寺と參、歸リニ花ヲ携歸申候。勘助、明二日汐
干ニ可參由ニ付白金とさそひニ參リ舟やとへも參り申
候。今日阿順、道具ニ取ニ參リ□^(ム)葛籠一ッ、内
ニ色々入、外ニ行燈、夜着包、下駄、草り、火鉢、盥等
不残□^(ム)遣し申候。
二日 朝も微雨、時々不降、入夜同ッ。
讀書如例。大人、今日は押而尼ヶ崎世子と被爲入候。御
病体御同様也。御葉同方暮六ッ半頃御帰宅。元之助、勘
助四ッ過出宅。白金之叔ト^(ム)欽助同道ニ而舟やとと參りし
ほ干ニ出申候。昼後も大南風。早も歸り申候。舟□^(ム)
は九ッ半過比也。はまくり大せいニ而御ぜんかこかた
／＼に半分ほととれ申候。面白不可言、帰乗長風一笑帰

也。舟ちんハ少、高候や三百銅なり。酒もたつさへ申候。白金も御ひろひ被成候ほと上申候。欽助も同様。今日白賣万藏来ル。折節故一升ほと遣申候。昨日之所ニ有ハ間違也。西隣も遣申候。今日山崎侯もひかん櫻数枝来ル。是先月廿六日、元之助参リ申候節約シ置〔ウ一七〕申候由也。當年は花未発甚不自由也。所、皆桃斗也。是も野桃ハ漸開くらひ故、櫻などはいまたなり。

三日 終日曇、入夜雨。

節句之御祝儀如例。大人御心快候へ共、未熱後、不発。朔日之御様子、其上且此間も夜分兎角盗汗被成候由ニ付、今日も又、柴桂湯二貼ツ、上申候。是半表半裡之御氣味故也。元之助、勘助、尾張丁とひみな買ニ参リ四重組之五寸木黒蒔絵重箱一組十一匁五分也。八寸雛方上下着一ツ薄金之燭臺ツ三匁五分也。ととのへ帰リ申候。十太方七寸上下着箱也。一ツ七匁五分贈リ申候元之助贈申候。白金も瀧口帰リ御見申候。四日 雨、甚寒冷不堪。

翻刻『芙蓉館日記』(六)

今日、青山例日之所、先月廿九日ニ承リ申候ニハ、今日公家卿惣出仕〔御〕登城ニ而、大納言様之御祝御能有之、左候へは終日故大人〔オ一八〕予、外様を罷出度由申候へは、左候へは且那も申聞候。御延引可被成由也。予申候ニは若御登城有之候ハ、罷出申〔ウ一七〕若御登城御延引被成候ハ、罷出可申由申候所、今日惣登城故参不申候。勘助在宿。

五日 時曇、大半晴。

讀書如例。大人、大低御心快、深川公子も御迎参リ被爲入〔ウ一七〕御帰リ被遊候而御在宿。元之助、勘助在宿。儀礼會〔ウ一七〕也。今日家來老人下リ申候。六日 曇、夕七ッ過も雨。夜五ッ時少地震。讀書如例。大人御復本。山崎侯を被爲入候而ハッ半過七ッ時御帰。夫も渡邊老侯を被爲入候而、翌曉七ッ時御帰宅。元之助、今日加茂数右エ門約束致置候所、昨日断来リ、来ル十三日定日申〔ウ一八〕遣シ申候。勘助在宿。森川源之亟殿を参ル。ハッ前帰〔ウ一七〕。外無事。今日ひる

なのしまる箱入也。

七日 終日大雨。夜も雨也。新堀の川大ニ水。

讀書如例。大人、神戸侯ハ四ッ半比ハ被爲入候而、夕七ッ時御帰宅。夫ハ御在宿。元之助、祥雲寺約日之所断来ル。来ル十五日朝之内約し遣し申候。夫故在宿。勘助在宿。少風氣。内傷之気味なり。外無事。

八日申 終日雨也。朝大霧、入夜少晴。

讀書如例。大人、鳥羽世子ハ四ッ時御出宅被爲入候而八ッ過帰宅なり。夫ハ御在宿。元之助、一本松山崎侯如例。泥塗故かこ来ル。勘助、柳世子如例。舞岡吉右エ門様ハ明朝御帰リ之由也。留宿也。

九日 陰雲。終日冷氣。八ッ時比ハ雨ナリ。夜中成雨。

甚寒ッ。例年の二月中旬比也。

讀書休。青山如例。夜五ッ時比御帰宅。但落間御講釈也。今日、大納言様御祝儀ニ付惣出仕、献上物有之候ニ付、青山御両方様八ッ時過御帰館。因而講席へ大夫始而巳ニ付濟。豊公子如例。侯之思召ニ而御駕籠出。此節

京より被降候、大炊御門、青松寺ハ御逗留之処、今日發駕也。但右は

大納言様御元服ニ付惣公家十一頭被降候也。舞岡ハ今朝在所ハ被帰候。尤前夜一宿。又、十六日越後發足之由被申候。勘助在宿。外無事。

十日 雨、前日より強く夕小雨。入夜亦甚ッ甚寒。

讀書如例。大人、宇和侯、生実侯如例。夜五ッ時過御帰宅。家兄、小幡世子、柳世子如例。暮六ッ時比御帰。勘助、八丁堀如例。帰宅之上、麻田如例。

十一日 雨休、且晴、且曇り。寒ッ。昼比急ニ晴、暖

氣。七ッ時比ハ夕だち。雨強。初雷二三聲。

御講釈如例。大人、稻葉公子如例。夜五更前ハ帰宅。家兄御在宿。勘助、今井谷詩會ニ赴。席上、花開多風

雨。宿題、池上藤。小集甚寂寥也。

十二日 朝快晴。昼ハ曇り。少暖也。今日ハ八專。

讀書如例。大人、藝侯如例。但御駕籠迎之者来ル。侯、増上寺ハ御參詣。世子而已御聽聞也。八ッ時比御

婦^(一〇)。量卿翹丁如例。夫^ヲ本多千五郎如例。勘助、山

崎如例。」^(一〇)

十三日 晴、北風、不暖。ひなたハ大分暖也。

讀書如例。大人、濱丁七日之御代日ニ御出被爲在候。夕

八半時御還。夕方米津公子^ニ被爲入候。暮過御還。量卿

□^(ハ)加茂氏^ニ御出之處、断参り御在宿。勘助、小幡、柳

世子如例。尾笏様^ニ御養子之敬^ガ之助様御逝去ニ付昨日^ノ

三日之内穩便之御觸出。下谷武田三右^ニ門殿御出。但來

廿四日、京都在番之發たつ相極り、暇乞ニ付見候也。昼

食、酒出。夕八^(ハ)時比地震少也。南風大吹ク。

十四日 晴。薄霜。色白不二、南風又東風、入^(ハ)夜月暈

アリ。此節桜花上野ハ最早末也。

讀書如例。大人、一本松山崎君^ヲ尼崎世子御代日ニ被

爲入候。夜御還。元之助様、勘助、武叔及七三同伴ニ而

蛤^ヲ拾、^(一〇)塩干ニ出ッ。何れも耆人ニ而四五升位拾

也。八^(ハ)時過潮^(ハ)申候故還也。尤、舟宿^ハ田丁土屋也。

十五日 陰り。不暖不寒。夕少々雨り時候適月。

讀書如例。大人、此節少々御風氣ニ被爲在候也。^(ハ)夕

伯太^(ハ)老侯如例。夜九^(ハ)時過八前御還。深川断参り候故

御^(ハ)□参。家兄在宿。今日、饗禮會如例。燕礼終。勘助爲

御名代下谷永昌寺^ニ參詣。夫^ヲ武田氏ニ而昼食出。但今

日年忌ニ付少々料理有り、夕八^(ハ)時先^ヲたち、夫^ヲ梅子

冢を尋、便路嵩山房隱宅重五郎^ヲ訊、入夜帰り、下谷年

忌^ハ隨器様十三年回忌、七月廿五日祥月也。徳水院同十

七年忌十二月廿五日、然處、三右^ニ門様京都在番^(ハ)□被取

越、今日法事被致候。扱永昌寺^ニ參候處、住師用事ニ付

早朝^(一)出、朝讀經相濟申候様、弟子房申候。勘助上

香致、且香奠とて銀子三匁位持參也。万藏掃除ニ來。

十六日 薄陰。南風氣、甚暖氣也。夜中雨。

讀書休。青山御會讀、漢書如例。敬之助様御出棺、御

納所傳通院也。勘助、麻田^ニ行。昨日藤公被見被見、^(ハ)

今夕大林殿^ニ被寄、明日越^ニ發足と一寸被寄也。

十七日 雨、七^(ハ)時半比迄強、水潦漲溢。入夜休、暖氣也。

讀書如例。大人、神戸候如例。七^(ハ)時御還。福大夫^ニ夫

御出之処、長谷川君が當年初而申來候故、急ニ福大夫
御断被成、遂ニ長谷川君を御出被爲在。夜四ッ時比御
還。元、勘在宿。但福田モ當年始也。

十八日 薄曇。夕快晴。

讀書如例。大人御在宿。處々断ニ付テ也。元、勘在

宅。今日風呂ヲ

(ウ二二)

十九日 一寐南風。夕北風也。

朝も昼過迄甚暴暖。大似初夏、夕雷風、大夕た
ち、看花者多く沾衣。

讀書休。大人、青山御定日之処、松平遠江守殿始而御

逢被成候上、且御客有之候ニ付御出可被下候由、兼而御
約被成候間、青山へ家兄ノミニ而尼崎被爲入候。但麻上

下被爲召者也。尼崎御客は神戸、小幡、大久保、榊原、
本多大勢之由也。暮六ッ時比御還。勘助在宿。大人、

尼崎ニ而御詩有。「万藏來。」

(オ二二)

廿日 晴天。北風甚餘寒、昼も曇、夕微入夜甚しく

雨、風休。

讀書如例。大人、小幡世子が爲十八日替日御出被爲遊
候。八ッ時過も御帰宅。夕、宇和島侯如例。夜四時過御
帰宅。今日飛鳥山御花看ニ付、大祖母君お貞様頼み御

元之助様白金武叔御同道。御供ニハ太、お里、住次内

駕籠二てう御供也。尤一てうハ大祖母君常乗り手前駕

籠也。一てうハ渡邊又藏方が借用。お貞様、おみなほう

乗り申候。駕籠賃一てうニ付九百五拾兩位外

ニ御弁當入用、且先ニ而茶屋入用、合メ金式兩位。

朝五ッ時比御出宅。夜五ッ時前御帰宅。帰路雨ニ而嵩山

房ニ而傘二本借用被成候也。勘助、麻田断御兩位

番相勤申候。碧山鈴木五郎左エ門氏相見へ當月末熱海

ニ參り申候間留別且、例年花下飲廿五日ニ相催申度候

間御揃御出奉待候。且正月御詩會參上可仕處、無據用事

不參、其節持參可仕候筈とて銀子四匁程酒費として持參

也。他無事。

廿一日 三時曇。昼過も好天氣。餘寒甚挾續也

(オ三三)

今日王子筋被爲成候。

御宅講釈四時過々如例。九ツ時半前ニ濟申候。○御詩會

如例。本田章三先相見申候。但舊年々從遊之者二人、大

村源太郎、朝長駒之助と申仁同伴ニ而相見申候。始謁

也。今日主人、先室弥七老相勤可申旨也。但、室ハ當年

々始々テ入門、講釈御詩會ニ出席。詩題、席上、暮春飛

鳥山賞花。宿題、觀刈麥。夜六ツ時過惣客帰散也。今

日、鈴木兵三郎、二三年ふりニ而相見申候。十太御料理

方相勤申候。

廿二日 雨天氣。昼前々大南風。及晚益（二三）□_{（ウ）}入夜

風雨。暖氣、人脱衣。

讀書如例。大人、治橋、松平、岩村侯如例。晚御帰宅。

夫より御在宅。家兄、麴丁鳥羽侯御断ニ而本多千五（二四）の御

出。夜四時比御帰宅。勘助、孤松、山崎（侯）御断ニ付

東海寺の参候。但當来廿九日温卿様（五）十年忌ニ御相當

ニ付法事之儀、妙解院（六）の申入候。弥廿九日ニ爲相勤旨、

納所申候。且帰路東海方丈寄、大和尚相見暫話談申、入

夜五更前ニ帰宅。但手土産として同州國府たはこニ包持
参。和尚（二四）ニ呈贈致候。」

廿三日 昨夜風雨強、朝風弥增強シ。雨時々吹かけ昼（二四）

飛雨止、又西（二四）々黒雲出、雨バラ／＼、夜止。

讀書例のことし。風雨故人甚少焉。大人、濱丁岩村世

子御約速（二四）之處、迎人間違ニ而不参候。昼時々参候故御断

被遊、白杵世子の御出被爲在、夜御還。元之助様御宿。

勘助、小幡（二四）の柳世子如例。

廿四日 晴、朝甚寒。夕南風不暖。夜中雨。

讀書休。大人、深川如例。福田御中日ニ付御出（二四）

差掛断来。夕御在宅。勘在宿。量卿先生宿。

廿五日 朝雨止、亦陰、夜雨、終日同様。南風暖氣也。」

讀書如例。青山如例。但今日、量卿先生（二四）□_{（ウ）}山、鈴木三

郎右ニ門、明後廿七日熟海ニ参り候ニ付、今日例年花下飲

兼別錢筵有之、青山（二四）直ニ御出被成候。勘助、宅（二四）の参。

但田彦藏同伴遅メ也。今日青山廿九日温卿様御遠忌ニ

付、次廿九日御断、代御申入之處、一向來四日ニ講釈、會讀兼而可被爲也。入夜御還候也。今日碧山ハ爲驢小菊紙五帖相贈申候。定助者召抱候奉公人、今夕請狀致、明日引越候約速也。

廿六日 南風強、甚暖氣。雲低ク飛如駛、大南氣也。

讀書如例。大人、一本松山崎君ハ爲入候。尤今日ハ兼而園中花見之御約之處、先日段ニ延引ニ而、今日遂ニ夕方元、勘（二五）御招ニ而御花見可有由也。大人右ニ付朝

御出。御會讀後御花看之處、急ニ半井大和守殿被見、因而御花看而已ニ而御會無之候。元、勘、八ッ時過參候處、直ニ園中ニ參、初而半井大和守殿ハ謁申候。且又山崎権十郎殿ハ申二三石位之御方、是又當日爲御取持被見候。但右之人ハ一本松山崎家分地之由也。半井氏ハ兩典藥頭ニ而（二六）也。詩書多年心懸候と也。席上、暮春園中閑遊と申題ニ而各有作。入夜五ッ時比帰宅。大人ハ暮時（二七）御還被爲遊候。此節、桜花八重少ク餘り、大躰ハ新桜と相成申候。奉公人定助引越申候。入夜雨。

廿七日 朝陰、昼ク晴、北風寒シ。夜晴又倍冷（二五）

讀書如例。大人、岩村侯爲御代日、被爲出候。福田氏當年は痔疾ニ而段、御断。今日ハ初マル。先達會初被爲出候處、主人痔疾ニ而平臥、且断ヲ忘ル。勝助、麻上ニ而吸物、酒盃事被爲遊候。元之助、神戸侯如例。但此節春緩公發欽定ヲ合講。且荀子、說苑三部ツ、ニ而長クナレトモ終日手間取申候由也。勘助宿。

廿八日 快晴、寒シ。昼ク南風氣、夕薄陰、後雨。

讀書例とし。今惣出任有之。且献上物等御座候。御臺様從三位ニ御任シ被成候故と也。大人、鳥羽、尼崎共ニ御断。御在宿。元之助、山崎君御断。御在宿。勘宅在。今日太ク祖母君、おみな御つれ、東海寺と御參詣被成候。右は明廿九日温卿様五十年遠忌ニ付被爲入候。御母（二六）御逗留（二六）外之者共帰り申候。今日愛右下米津兵庫殿、金森右ニ門殿ハ御養子に被入候。但内之引越也。大人、治橋ハ御出掛ケ。御麻上下ニ而扇子式握御持參。御暇乞として被爲入候。

廿九日 美景、南風暖也。早朝少冷也。

讀書休。青山御定日之處、此間御断被仰置候。温卿様五

十遠忌。大人御初、元、勘兩人共参詣致候。武叔、十公

ハ讀経後ニ被見ル。乍去、非時ハ一所ニ相濟。御経ハ觀

音経、僧五人也。神位ニハ御膳□、御くわし薦ム。秀山

禪師、権首座共僧七人也。但此節白雲庵□主ハ無御坐、

小林権首座預リ也。膳、酒、くわし出、大分丁噓也。

御^(イ)法事ハ金貳百疋ニ而諸事相濟、當日持参ニ而妙解

納所ニ遣渡候。大人、四匁銀御香奠。元、勘ニ而三匁五

分銀香奠。武叔少々香奠□。

飯 汁

御非時 酢合、猪口 平酒 吸物 餅くわし

昆布油物 硯蓋 菓子 饅頭

右御法事九ツ半比ニ相濟、跡ニ而暫御物語ニ而八ツ時比

御□知被相成候。自夫方丈大詢和尚を御尋被成、在宿ニ

而暮間迄御物語被成、夜五ツ時比御帰宅。御帰路時々

細雨降り申候。

晦日 南風、晴陰不定。昼々暖氣、夕寒。

讀書如例。大人鳥羽爲代日御出被爲遊候筈之處、断申

来、夕、宇和島公ハ御出被爲遊候。但大人今日ニ而御納

會。来月十八日比、御暇被 仰出候ハ、帰期甚近候間、

大人御出ハ今日迄也。元之助、小幡世子ハ柳世子如例。

勘助、麻田公子如例。」^(二七)叔飛息、順之丞来。急ニ用

事付當年父子共滞府之處、来月三日比發足致候間、一寸

御暇乞として見へ候。但、當秋ハ父叔飛ハ又々出府可仕

候由也。今度ハ三助公子御国ハ御越ニ付御供也。右ハ雲

洲侯御不快ニ付急ナル事と申候。乍去、彼是手間取、四

月九日發足致候様、外ニ而致承知候。

○當十九日、大人家兄ハ御出之留守ニ而梶川伊左ニ門粹

伊作□家来と詐リ木綿合羽一ツ、傘一本、足駄一足、供

合羽、桐油籠乞貸リ申候而参リ申候。以後一向相知不申

候。他日梶川氏ニ右之段申遣候處、弥詐賣リかたり申候

由也。去年中抱□候家来性来不宜、處々かたり等致候と

申越候。

(二八オ 白紙)

四月 小

朔日 雨天氣、北風甚寒、綿入衣服着ニ而丁度よひかけ

ん也。昼も薄曇り。

御講釈如例。九時濟申候。唐詩選無御坐候。大人、白杵

世子と御出有之候。但當年白杵候御帰府之處、不快ニ付

爲名代、世子御在所に御出被成度願を其通りニ被 仰付

當五日御發足之由也。右ニ付今日別筵として、大人、刀

術之指南致候者今泉文蔵、又、越後流軍學致候者渡並武

七兩人をも御客筵として一處ニ被招候由也。大人、御裏

附小紋上下被爲召候。世子ハ茶字裏付上下。小倉氏、稲

葉七ニ門ハ麻上下也。八ツ時より暮過之坐席ニ而相濟申

候。尤世子御一所ニ萬事取斗被致し(三八)今日ハ右ニ付御

稽古無之候。元之助様御在宿。勘同前。

二日 陰り。綿入ニ而寒シ。夜陰少く雨降。

讀書如例。大人御在宿。元之助様、鳥羽先日之代日とし

て御出。自夫、本多千五郎如例。勘助、一本松山崎君如

例。先月抱至候越後生之奉公人、定助と申者欠落致し、

右ニ付早速古川宿に申遣候処、取替金不殘持參。夫ニ而

赦遣申候。

三日

(二九オ 白紙)

(二九ウ・三〇オ 白紙)

五月 大

朔日 朝陰り。終日晴陰不定。甚蒸氣。昼もバラ／＼ト

雨乍止乍降。夜陰向曉雨。

御講釈如例。昼過も伯太、老候御出被爲遊候。但先月中

御眼氣ニ而御断。兩三會御延引ニ御坐候処、餘御間遠ニ

付今日被爲入候。夜九ツ時半過御帰宅。元之助御在

宿。勘助同前。

二日 昼前迄雨強シ、給ニ而丁度宜シ、夕陰行雨、入夜

甚寒、細雨降、此節漸子規ヲ聞ク人アリ。

讀書如例。大人、生実侯如例。但、先晦日之御代日□。

八ッ時比御帰宅。夕御在宿。量卿先生、本多〔十五郎〕。

〔三〇〕如例。一躰大人、夕尼崎御約之処断来。勘助、〔一〕

本松断来。在宿。〔以下白紙〕
〔三三〕

(三二ウ)三二ウ 白紙)

十日 雨、甚冷氣、梅雨中ノ候ニ似タリ。東風。夕雨

止。曇り。

讀書如例。大人、生実侯如例。夕伯太老侯〔如例〕。夜七

ッ時前御帰宅。元之助様、神戸侯如例。朝五ッ時過ヲ夕

八時半比迄かゝり、自夫柳世子如例。暮間御帰り。但小

幡世子ハ御断有之候間、御出〔如例〕。勘助、八渠求馬介殿

如例。朝四時過ヲ夕七時比帰宅。

十一日 晴、向暑、全躰薄曇アリ夕日ノ色赤ク無光、七

ッ時過餘程強地震アリ。

御講釈如例。此節出席之人少し。當日も三人而已。大人

御宅。家兄、今井谷詩會ハ御出。八ッ時過ヲ暮過〔三三〕

御帰。席上ハ夏日閑居。宿題ハ夏日送人遊〔如例〕嶽と也。最

今日ハ本多文卿見へ、題を出し申候。勘助、塚本七大

夫殿ハ参り申候。九ッ時過出宅。夕六ッ時比帰。但ッ當

年ハ彼是ト紛免ニ而、申来候処延引ニ相成、當日始メ

テ参申候。今日、本多千五郎内兵次見へ、青山百人丁内

式十騎与力根本藤吉郎と申仁、縁談兼而申入候処、弥御

相談申度由申来ル。量卿先生御逢被成、御談被成候。海

津俊益老被見候。此間〔如例〕祖母君御不快之処、最早御全快

ニ付御参御断之処〔如例〕。窺ニ被見候。夜月色甚赤

く帯〔如例〕也。
〔三三〕

十二日 晴、昼ヲ少薄曇り。昼間途中暑、朝夕ハ冷氣。

宿ニ而ハ昼之間も裕ニ而宜シ。

讀書如例。大人、藝州被爲入候處、御断ニ而十四日と振

替故、今日ハ十四日御定日之岩村侯ハ御出被爲遊候。夕

八ッ時比御帰。夕御在宿。元之助様、鳥羽侯ハ御出

御出之跡ニ而急ニ断申来候得共、最早御出ニ

付先方ニ而も少し御講書被成候。八ツ時比御帰。夕、本多千五郎断ニ付御在宿。勘助、一本松山崎君断。夕、

白賁亭見分參申候。當年ハ重地故、茄子苗を自分之畠ニ植申候。右ニ付白賁畠ハ手前之岡穂之稻を蒔申候。

○今朝、高原宗伯悴、宗意、久々病氣之処、養生(三四)不叶、昨夜死去之由知セ来。大人、岩村ハ御出懸ケ、御

悔ニ被爲入候。送葬ハ夕方と申事故、量卿先生見たて御出之処、最早出葬相濟申候ニ付御出無之候。十公、下

町邊ハ買物ニ參リ申候。尤、今日浅草藏屋迄ニ扶持米取リニ可參候處、印判失念ニ付浅草ハ不行。扱今(三五)西

隣、相原氏出入呉服屋越後屋を此方ニ而も□、様子次第ニ出入可申付由、十公、先越後屋ハ參、許多之品持可来

旨申通候。但ッ只今迄升屋之処、兎角品物間違、用向弁不申候間、依而外ニ取替申候。榊原ハ使来。夏

駕籠蒲團。十公石摺六通、九ツ時(三四)使之者ハ相渡申候。唐竹一束丸屋ハ調申候。御菜園御用ニ付。

十三日 終日薄曇。夕雨南風。向暑。暮間冷日暈。

今日、羅漢寺筋御成還御。讀書如例。大人、一本松山崎君如例。七ツ時御帰宅。元之助様加茂氏如例。夜六ツ半時

御帰。勘助、小幡世子如例。七ツ時比帰宅。柳世子ハ先方差合ニ付断。今日竹醉日ニ付東籬之篇竹一と本移申

候。今日兼而被頼候大久保五兵衛方武野八景大人(三五)兩人共揃ニ付爲杯遣シ申候。越後屋、反物持来置帰ル。

此節博奕御法度之御觸書處、出申候。尤十年前申年御觸有之候。此節、信州碓氷嶺御関越被□御尋ニ出申候。

精しき事別記ス。小幡世子、今日ハ書經讀書相始申候。但ッ是以前□相濟申候。一昨夜新橋邊出火。直ニ消。

○今日ハ入梅と八專。此節鯉魚心易く御坐候□。十四日 雨梅候也。北風冷氣挾續。

讀書如例。大人、藝州如例。但十二日御代日也八ツ時御歸り。昨日、宇多松次郎殿隱居柏翁老ハ先月廿二日松次郎(三)、御

本丸表御祐筆被仰付候由、知セ来ル。尤、松次郎殿、只今

迄小普請ニ而勤方無之候。但表御祐筆ハ松次郎兼テ心願之由也。元、勘在宿。今日雨天ニ而藝州迎之御駕籠來。但町駕籠也。

〔三五〕

十五日 細雨梅候。尤冷氣、北風餘程有。

當日御賀。讀書如例。大人、深川小新次公子御延行ニ

付終日御在宿。元之助様御在宅。勘助、朝、麻田公子

如例。尤此以前三會程普請ニ付断來。今日、宇多松次郎

殿御番入ニ付爲知來。隱居柏翁も手紙之返事被遣候。

今日、麻田ニ而風聞、久留嶋侯大御番頭被 仰付候由也

今日大御番頭被仰付。越後屋來。

○今夜月蝕。戌ノ一刻二分餘獻ナガラ出、戌七刻甚し

く、亥之七刻ニ終り。

○儀礼會讀、燕礼一篇濟但今日ハ秀次郎而已他之者不見。加藤左源次ハ兼断 〔三六〕

十六日 雨、細雨帶風、冷氣甚、挾竈。

讀書休。青山如例。今日家僕七平風引ニ付雇入卷人。

暮六ツ時過御帰宅。尤御駕籠出。御會讀は漢書兩龔鯉宣

傳一傳終。家僕七平風引ニ付御葉被下候。但藤川秀

刻翻『美葉館日記』(六)

菴老葉也。越後屋人、但此間呉服調申候ニ付拂金ヲ取

リニ來。然處御留守、且西隣相原多年取付ニ付、右同前

懇意ニ致シ二季拂致度由申、今日拂不申候。御菜園蠶

豆ツぶ取申候。但尅升程有之。今日裏町森元邊若年人

共風神を送り出申候と而藁人ヲ作山伏〔三六〕四人、祇

園囃子ニ而夕方通申候。青山御帰暮六ツ時過也。

十七日 朝雨。四ツ時比多九ツ時過迄薄晴。又、微雨。

冷氣如昨、夕晴薄曇、青空見。

讀書如例。大人、神戸侯如例。夕、福田大夫如例。

但人此節無人ニ付先多迎之人被召候也。元之助様、生

実侯と御出。四時御出、九時半過御帰。勘助、柳原、

加藤左源次殿多手紙來、一昨日十五日旦那大御番所被

仰付候ニ付岸田九十九、私兩人、公用役方被申付、當時

甚セ話敷故御會等出席仕兼候と也。堀右兵衛人、明

日古屋小十郎隱宅多參り申候間御出奉人と也。□様人

〔三七〕御留守ニ付明日御返事取りニ參ル筈也。十太、石

摺先日遣置候代物四百五十銅來。尤、杉本善衛と申仁名

前也。越後屋參り拂金貳兩^(貳)分^(分)朱拂申候。但シ
呉服物品々別記。家僕病氣ニ付水貳荷爲入申候。但
老荷ニ付、代十二銅ツ、。

十八日 晴。昨夜も急ニ晴、一天無雲、昼比も處々薄
曇。宅ニ而ハ裕。外出ハ單衣ニ而宜。

讀書休。大人、小幡月例御講書も堀右兵衛尉殿を御出被
爲成候。但、夕、尼崎世子例日之處、兼而御延引。尤、
堀右兵衛尉殿へ前日先方も被招候ニ付、御出被爲成候。
夜四時御帰館。元之助様、夕田丁久留嶋出雲守殿、去十
五日^(二七)大御番頭被爲蒙 命爲御喜御出被成候。林定
五郎御逢被成被仰入候。勘助、塚本^(八)大夫如例。白
銀叔御出被遊候。稲野家僕林八伺候ス。御酒被下候。
宇多川丁源四郎方も多葉粉切ニ遣候。家僕七平、今日
も快ニ付御奉公相勤申候。

十九日 快晴。八時比も日暈アリ、夕、南風出曇^(八)、蝦
蟻、多嶋、鯉魚多取れ申候。

讀書休。青山御兩様如例。七平御供。夜四時過御帰宅。

御帰之節、新召抱申候住次、稲野氏家来セ話ニテ越後村
上領之者、年十八ニ相成候。直ニ御連被遊、被爲入候。
^(三八)但シ御帰路之節、御駕籠出。外無事。

廿日 雨、梅雨ニテ冷氣。尤北風ニ而吹雨甚シ。

讀書如例。大人、生実候如例。夕御在宅。但、夕伯太老
疾之處、少々御不快ニ付、御断被爲遊候。元之助様
^(二七)世子も柳世子如例。夜五ッ時前御帰宅。勘助、松
平求馬^(八)殿參り申候。但、朝之内ト申候得共、四時過も
夕八ッ時比迄ニ相濟申候。自夫、白鳥平内氏を詩會ニ
參申候。右は積翠園門人且^(八)子言等相計、輪番ニ月ニ一
度ツ、詩會致事と申候。當月ハ白鳥主人故、昨日大人、且
家兄及小子ニ被招候。御兩人様御断。右名代勘老人參。
席上夏^(八)竹飲ニ申也。万藏掃除ニ參り候。^(三八)

廿一日 快晴、蒸暑甚シ。昼迄ハ少々曇り。

讀書休。御講釈^(注)而左傳四枚、唐詩選、五言排律三首如
例。九時過相濟申候。自夫、御詩會如例。今日主人、岡
村百之介殿也。御客十三人也。席上、夏日^(八)芙蓉図。

宿題、河上螢火。夜五ッ時相濟申候。今日、福岡芳助

見へ申候。是ハ米津兵庫殿、金森左門殿御養子、先日御

獨行被成候以後、又、稽古相始度由申来。金森殿屋敷ハ

一ヶ谷御門邊。遠方故、兵庫殿米津実家ハ度、被參候間、

其節米津様屋敷ハ參、稽古申度由ニ而談合相極申候。

外無事。

廿二日 快晴、夕曇。蒸氣甚。

讀書如例。大人、岩村世子如例。夕八ッ時比相濟。已

昨日申遣候通り、米津邸ハ御出之處、金森兵庫殿養家ハ

急ニ呼ニ来、先刻被戻候と申候。一向前後不釣合、甚笑

止之次第也。右故大人御書被成。福岡芳助□前ニ而以後

大人、勘助ハ二七ニ相定、月ニ六度ッ、申度由也、仰置

候と御咄也。田丁久留嶋大御番頭被 仰付候ニ付御願ニ

御出被成候。元之助様、糺丁ヨリ本多千五郎如例。夜五

ッ時過御帰。勘助、麻田公子、一本松山崎君如例。夜

五ッ時御帰宅。今夕加茂敷右ニ門見へ、御近所ハ參り

申候間、御様子一寸御尋申上、且十^(A)三^(B)經句讀之写、論

語、易相濟、則周禮二冊借遣申候。 (三九)

廿三日 快晴、大南風、昼比弥增强相成、夕休。昨夜微

雨ニ而朝ハ甚之快晴也。

讀書休。両三人見。但當日ハ白金武叔と約速ニ而きす釣

ニ可參候処、朝ハ南風緊しく相休申候。夫故前日ハ讀書

相休申候。裏七三も伴可致様と而前日ハ當番ヲ操替至候

処、散々ニ而一向休申候。大人、昼迄御在宿ニ而夕ハ伯

太老候如例。但此節短夜、且夜分御厭被爲□^(A)。八ッ時

前比ハ御出。伯太夜食甚遅く、其上熟不申候間御弁當焼

食御持參被爲遊候。夜四ッ時半過御帰。元様、夕濱丁加

茂氏ハ御出。夜四時前御帰。但風ト雨ト考急度□^(A)ヲ釣

ニ出候積リニテ□^(A)御断無候由○^(四)勘、小幡世子ハ柳

世子如例。但小幡世子ハ津輕殿ハ御招ニ而御留守。稽古

なし。岩吉殿、初之助殿兩人讀書致候。柳世子ハ尚書三

枚讀申候。追 ^{今日、岸田九十九見、先日旦那大御番頭被仰蒙ニ付私用人}
^被 ^ニ ^同 ^前 ^比 ^節 ^御 ^出 ^被 ^下 ^候 ^御 ^禮 ^旁 ^ニ ^付 ^候 ^致 ^候。

廿四日 晴、暑色甚。南風少あり。晚ニ微雨皆、縮之單

衣ニ而汗多出程也。蒸モ甚シ。

讀書如例。是ハ當月ト廿五日ト振替、今日稽古致。明廿

五日休讀致候。大翁、深川小新佐公子如例。御帰路柳候

御出被爲在候。是ハ久々御疎遠、且先日ト候疾痔ニ而

平臥被致候処、其後一向御見舞不レ候ニ付、今日御出

被爲在候。然處、候御逢不被成候レ（四〇）（五）讀書被成

候。且蒙求一枚是又讀ミ被成候。元之助、山崎君夕ト御

出。夜五ッ時御帰。是ハ十八日替日之由也。勘助、東

海寺上方ト見舞申候。但少林參詣之砌也。且大村藩本文

卿ト被頼、當時之御（五）海上方筆ニ而額一枚、一行物一

枚、茶室出来之処ニ掛ケ申度由頼申候間、則申入候処、

大和尚此節右之手少々痛候得共、貴様方より之頼ミニ而

ハ随分認可上旨被申候。夫ト晚日ニ也、閑話仕、入夜辰

申候。行掛一寸白金武叔ト寄申候。お貞様、法安寺ト御

墓參。尤御墓（五）參已ニ而、寺ト御申込ハ無御坐候。帰路

愛宕縁日ニ付御參り被成候。今朝藤川秀庵老ト女中一

人月債ニ（五）申來ニ付、則御承知之上、一

ケ月ニ南鐘一斤之積りと致呉候様、望申候間、右之通り

ニ而、直ニ呼置申候。

廿五日 早朝急ニ晴。昼過ト又々曇り。不雨ニ而昨日ト

少冷氣之方也。

讀書休。青山御兩人如例。但御讀會はなし。御帰御駕

籠出。勘助、麻田公子ト八丁堀如例。夜五ッ時帰宅。昨

日、裏之十太内儀、塩引鮭少無心ニ見候。是ハ此節女子

ヲ青山山田吉太郎方引付急ニ出来申候女子、痲瘡ニ而甚

重々難洩致故、右之小兒ニ菓食ニ爲致申度由也。

○此節升屋ト又、御用被仰付候。尤只今迄之手代又三郎

不（五）今度ハ新七ト申手代頼入候。 （四一）

廿六日 南風大吹雨。昼ト雨少休。夕風息。暮晴。夜快

晴。

讀書如例。大人、朝四時比ト一本松山崎君如例。夕四

時御帰館。自夫御在館。量卿先生御宿。勘助、今日塚

本太夫（五）約諾之処、甚敷風雨、參り不申候。今日、青

山稲野林八見、御屋敷御扶持請取書、五月六月分如何間

違ニ御坐候哉。正月二月ト書付ニ御坐候間、明日廿七日

請取日ニ付、一寸御書直シ可遣段申来□。大人御留守ニ御坐候得共、則五月分を書直シ遣申候。林八と酒一盃爲飲戻申候。今日、去十九日参り候奉公人住次と申候家奴、請狀ニ十公可参筈之処、右風雨故、幸、林八見へ候間、則断遣シ申候。明日玉川御遠足ニ付今夕も御弁當諸事仕度致候。

〔(四二)〕

『廿七日 朝曇、四時比も少々晴。昼も好晴、夕南風あり。讀書休申候。今日ハ兼而御約速有之候付、大人、家兄、自身初、松平十左衛門様、榊原克之助様、岡村百々之助殿、高橋仙益□を同伴、瀧村常次郎、兼而遣置候玉川勢多丁半兵衛と申者□参り、自夫、玉川渚ニ一樽傾餘後ヲ遮垂、曲水宴同様ニ盃ヲ流、後互飲楽致、誠三日曲水同前ニ雅興相催申候。』(此の分七行、抹消の大輪印あり)〔(四二)〕

廿七日 朝曇、四ツ時比も少晴。昼も好晴、夕南風有。讀書休申候。今日ハ兼而御約速ニ付大人御初、家兄、勘助同伴、松平十左衛門様、榊原克之助様、瀧村常次郎、岡村百々之助、高橋仙益同道ニ而二子渡邊玉川と遠行御

坐候。但前日大嵐ニ而今日延引之処、昨夕も段々天氣宜敷ニ付至今朝急ニ松平十、榊原克、瀧村常三人、私宅ニ誘ニ見へ、自夫御酒御弁當之類御爲持被成、但酒二升、焼飯一重、肴一重、黄瓜もみ一重也。松平十も酒二升、手前老人前之弁當、柳原克も手前老人分弁當、仙益ハ弁當なし。朝四時比出宅ニ而相模橋邊ニ而岡村百々之助待合、又暫手間取り申候。勘助、道も岡村百々之助を誘引ニ罷越申候。依而四ツ〔(四三)〕彼是ト手間取、四時半前ニ皆々揃ヒ、自夫渋谷土橋ニ路ヲ取り駒場御用屋敷前も三軒屋ニかゝり二子津と九ツ時半過比ニ参付申候。尤先方ハ瀧村常次郎内ニ而久々召遣申候下女之宿ニ而多年瀧村参り由也。是ハ玉川も三四丁手前ニ而左へ入、せた村之半兵衛と申者也。尤三軒屋ニ而弁當取出、且一飲傾ケ昼食同前ニ致シ、半兵衛宅より直ニ玉川と参り、獵漁之者請度由相談之処、此節一向不獵、且昨日之出水ニ而水濁り其上時刻ハ晚景故、始□一向ニ獵漁者出不申、鮎諸魚一向ニ無之候。乍然川之渚平沙洲之上ニ而酒ヲ温但炭

ハ持參ス。弁當取出、其上携參候鮑魚ヲ水貝ニ致、且直ニ川畔ニ而弄水、且觴を浮、誠(四三)三日曲水之趣ニ御坐候。時刻七ツ時過相成、半兵衛宅ニ戻申候。又其邊ニ而田沍ヲ竹器ニ而探リ小鮒等すくひ候。甚雅興且醉態ニ而松平十、別而風流ニ相見申候。半兵衛宅ニ而新小麥出来ニ付冷温鈍手打ニ致、且唐腐ニ鶏卵ヲ入申候吸物等こしらへ村婆甚馳走と相見候。尤差掛候事故、萬端仕抱モ無之、大狼狽之躰ニ相見、其上此節熟麥ニ而甚セ話敷故、別而不潔ニ而是ニハ大難渋仕候。乍然上(ハシ)十一人之膳ニ而村婆老人手廻申候。自夫七ツ時半ニ相成半兵衛宅を出申候處、大躰一里程も参り日も入、先勘助持參之。小打燈を付、三軒屋迄五ツ時比ニ着キ申候。夫ニ而暫休ミ打燈二ツニ而矢はり出懸之路之通リヲ帰、夜九ツ時過帰宅(四四)致し、松平十、榊原、瀧村ハ南部坂ニ而分申候。何れも甚敷ク草臥歩行も漸々宅迄推付申候。大人ニハ御駕籠と心懸、三軒屋ニ而相談之處、入夜駕籠無之、又御(ハシ)ハ御歩行故、御宅迄御歩被爲在候。凡

今日之路ハ八里位也。昼山崎山崎邸中新海清右衛門誘之處、急ニ断ニ見ヘ兼約ニ付庭前之生たて竹の子一重持參致し、遂ニ御弁當ニ相成申候。大人御途中ニ而御作被爲遊候。○加藤左源次相見申候。

廿八日 晴、夕曇、暑氣昨々微減。讀書如例。大人、兼而伯太老戲場と御誘引ニ付、今日差掛リ申參。則吹屋街桐場と御觀被爲在。(四五)朝四時比、夜四時過御帰館。但ッ送迎共御駕籠也。今日ハ甚御草臥ニ而御難渋之由也。元之助様、山崎君断ニ付御宅。勘助宅。

廿九日 曇、蒸暑。

讀書休。今日ハ青山御定日之處、櫻田御本家世子御夫人ふき宮様御一周忌ニ付御断御坐候。大人御在館。兩人御同様也。大人昨日之御酒、一昨日之御草臥ニ而御痔痛大キニ起リ御積氣御平臥。御葉ハ明日ハ藤川秀庵差上申候御積リに御坐候。万歳掃除ニ来。但早朝也。此節竹筍三本漸々出申候由也。(四五)

晦日 曇り甚蒸暑、終日油照と申天氣相也。夜中少雨アリ。

讀書如例。大人、森川侯の御出之處、兼而勘助名代ニ
参り、廿七日之代日として岩村世子も福田大夫の御出可
被成候處、御痔疾ニ而不餘御断被爲在候。御積氣愈増つ
のり脱肛御痛ミ被爲遊、御食少、減申候。元之助様、
小幡世子御断参り、柳世子も尼崎世子の御出。夜四時比
御帰。但尼崎世子ハ當廿八日も断。重々故障ニ而延引ニ
罷成。来月八日迄ハ程有之候間、爲御名代、元之助様御
出可被下段之懸合ニ付、則今日御出。詩経御講釈。世
説(四五)御會有之候。勘助在宅。青山用人、甲田大佐
見、来月十日比出足ニ付一寸御暇乞ニ見申候。義家公画
賛申候。宮木元昌見へ、元之助様御借申上候。古今餘
材抄取りニ見へ申候。何れも御逢無之候。青山栗城十
五郎も平目魚二枚到来。藝州木村斉も河茸一箱御到来。
宮木氏持参。

五月終

〔ウ(四六)〕

〔オ(四六)〕

〔表紙〕

寛政九丁巳年

日記下

芙葉館

夏六月ヨリ

執事

六月 小 建丁之月、宿直元

小暑十二日 大暑廿八日

七日半夏生 十五日十方くれ

廿一日初秋

朔日庚午 晴曇不定 今日冷甚用絮衣

御講釈御不快ニ付御延引、御痔疾也。大ニ發一昨廿九日尤

當春程ニ而ハなし。元之助、本多伊予守様も先月廿七

日之替リニ参ル。勘助在宿。今日、熊野祭礼。當年何もなし。

二日 辛未 時曇時露夕、晴。夕七ツ半過中くらひの地震。

讀書如例。大人同様。尤藤川休庵棄湯御用被遊候。膏

薬は西良仲也。元之助、大人之爲御名代、麴町鳥羽侯

ニ参ル。大人先月廿八日替、今日申遣。夫、如例赤坂本多千五郎方ニ参

ル。暮少過帰ル。勘助、山崎公定日延引ニ付青山之塚

本七右ニ門方ニ参ル。柳原、使来ル。筈二本遣し申候。

一本松のたけのこと。無事也。

三日 壬申 晴。昼比、曇はかり。夜五ツ時比少地震。

讀書如例。大人大方御快復。藤川棄今日迄也。今日、熊野祭礼。

産神ニ付元之助も(オ)外稽古断申在宿。勘助も同様。

参詣等致シ赤飯御酒等如例。青山、稲野鉄之助来。今日下女老

人暇遣ス。不快ニ付且手長海老ニ付而也。

四日 癸酉 晴尤前夜微雨。当日も夕、曇、夜又晴。陰晴不定。

大人、今日、御出勤。青山、御出被遊候。元之助同シ。

七ツ半時過會讀濟。夜五ツ半御帰宅。尤監ニ與也。勘助、松平求馬様定日之所断来ル。在宿。奥、太母君御始、白責亭、御出被成候。

五日 甲戌 陰不定、時々雨。

素讀如例。大人、深川、御断来ル。御在宿。夕、渡邊

老侯、被爲入、夜八ツ時過御帰宅。元之助、勘助在宿。

勘は(ウ)

六日 乙亥 雨。今日迄あわせを用。冷甚、朝夕不猶堪、老人

は用綿入。

讀書如例。大人、山崎断故御在宿。元之助、森川源之丞

殿、定日参ル。夫、在宿ニ致ス。勘助(ウ)

七日 丙辰 晴朝曇、夕八ツ比、晴、此節冷氣。今日少暖。

讀書如例。大人、本多伊予守様、早朝、御出遊候。御

帰リ之上、福田木工兵衛方、定会被爲入候。夜九ツ時少

前御帰宅。元之助、比、谷牧野日向守様、御着之悦ニ

参ル。當月朔日着例年定、タル日也。夫、松平和泉守様、同断悦ニ参ル。
當月四日 夫、當月三日定日断之替リニ加茂数右ニ門方ニ参

ル。日暮六時比帰。勘助、塚本七左エ門方と参ル。下
村之ひん付と一のへ申候。新海清右エ門見へ申候而元
之助、明八日之断、且當年は最早御暇も無間故、且那會
業被相休度、發駕前、御揃十八九日比ニ別宴御出可被下
旨、被申付候旨ニ而参ル。不在故認置帰ル。

八日丁丑 晴 今日始而暑氣。乍然閑坐自由なれば単衣而丁

度よし〜〜

讀書如例。大人、稻垣信濃守様と四ツ少前と御出日尤毎月
八廿八日

定日。夫と八ツ前御帰宅ニ而松平大膳亮様と御出被遊、夜

五ツ半過、四ツ時御帰宅。元之助(二)當日皇祖之正

忌日故、東海寺と参詣。朝と八迄始終客。夫と参詣。少

林院、妙解院とより、當月廿一日少林院詩會之儀乍序談

ツ置、夫と方丈とたちより暫咄、夜暮六ツ時過出、五ツ

時帰ル。勘助、松平求馬之介様と参ル。夫と柳生内膳

様に参ル處、御留主故直ニ帰ル。白賁と万藏掃除ニ参

ル。青山鈴木三郎右エ門、熱海湯治と帰り而あたミの

竹の丸烟艸入卷ツ、あたミの今井半大夫ト申湯治場茶屋

製之雁皮箋みやけニ持参。酒出。

九日戊寅 陰晴不定。夕と入夜微雨、暑色也。

青山如例。夜九ツ半時帰ル。元之助同様。勘助在宿。

野上欽助方と魚遣ス。是は先達而婚姻いたし候をいわひ

てつかはし候也。昨日、董池久之丞見へ申候而、戸沢上

総介様藩、大嶋勘兵衛之頼ニ而當時且那幼少、家中も不

しまつ故、学問も懈怠、只今迄大竹榮藏頼申候處、是も

老年等ニ而存之通参り兼申候ニ付先當時家中之爲御出之

有候而御講釈等願度候。尤大先生は(三)定日他御出ニ

及不申候。御二人様ニ而宜敷候由。行ニは且那も相願度

候。當時はケ様(ル)謝礼等は且那方と致候由、聞合

ニ来ル。承知之段申遣候故、右講釈等世話人頭取大久保

勇家老侍、當時老人
ニて小納戸役勤入門。素讀等致度由故、今朝見へ可申

由、申遣ニ付今朝入門相見へ申候。外ニ老人稽古致度

由、大場天柄ト申者同道来ル。兩人申合魚着一籠持参。

今日青山と御出之節、青山用人之甲田大作ト申者、先日

頼ミ之狩野休同ト言者認たる大幡大郎名越なこその関の畫かけ

物讚出來。外ニ送別一首被遣候。是ハ近日廣陵ニ帰ル故也。御贄、將軍威武海雲東、戰勝関門王氣通、提頭也外ト行ナラフ也猶想山櫻開落日、花逐金甲散春風

十日己卯 曇

讀書如例。大人、森川源之丞様定日御出、昼後八ッ頃御帰宅。夫々御在宿。元之助、今日松平乙五郎様定日之所、朝四ッ時迎人間違不参、昼九ッ半過参ル故、最早外運ク相成申候故、外適之段、自勘助断申遣ス。尤(オ)先方々手紙参り左右ニ失念之由申来ル。夫々木挽町、柳生内膳様々参り申候處、深川きはへ釣ニ被参候由断リ也。夫々金毘羅様々参り七ッ半比帰。勘助、塚本七右エ門方々参ル。尤昼前、青木右京殿々参ル。

松平安藝守様家中、江崎東馬ト申者方々同屋敷足輕躰之者頼ミ爲使参ル。是は明十一日青山根本藤吉郎養祖母、縁談之事ニ付此方々見へ申候約束之所、何事ニ而候哉、難参ト見へ申候。東馬相頼ミ此方々明日参リ呉候様ニト也。然ル處、東馬先日々疱瘡病人等ニ而此節漸出勤

致候處、世話敷勤故、明日は難参御断申候。夫々付近日参上可致候間、朝夕御閑暇御問合申度、且御父子様御留主之節之爲ニ御家内様之御方々ニ御目ニ懸リ置申度由ニ而参ル使之者也。右之者名ハ(ハ)吉、元五藏ト申者也。夫々十太ヲ引合、且此節家内病人等之由申聞候處、御嫁女様々御目ニ懸リ度由、是ハつまらぬ事なれ、此節白銀(ウ)叔父之方々逗留ニ参リ居申候由申聞候。見合候而酒も茶ニ爲替出(ハ)。外無事。

十一日庚辰 曇 此節日々曇、例年々ハ暑色ハ大分うすし。

しかしあぶらてりニ而あつくてこまる。今夕六ッ半比々微雨。夜半よほどふる。

御講釈如例。左傳定公三年経々始、唐詩五言俳律、峴山懷古々始ル。大人御在宿。元之助、今井谷詩會ニ参ル。尤先月と當月トハ予カ参ル也。先方之題如此。席上池亭聞蛙。宿題 八月十四日夾池竹。共各體。右當日之出題は國富文助殿也。夾池竹ハ徂徠集七律ニ一首在由也。予、歌之韻ヲ得て席上五律ヲつくる。八ッ半時比出宅。暮六

ッ半比帰ル。勘助しぶやと巡検ニ参ル。虫くひの竹の子大也一本持来ル。道ニ少ッ、短キ竹の子三本抜帰候。今日万藏小僧驚風ニ而即死致候。本多千五郎方ハ兵次来ル。明十二日口痛ニ付断也。乍序兵次申候ニハ、先日青山ハも参候處、今日同道致参呉候様被申候間、用事有之候而断申由也。扱、自分申候ニハ、昨日河崎〔オ〕東馬殿ハ五藏ト申者越候而咄候趣得ト申聞、縁女等ニ逢度由、鹿忽之段、河崎殿などハ定而立腹ニ而縁談変約も可有候之ト存候。此方故先〔ムシ〕様ニ致逗留なと申断置候。其方参り候而元之助も全躰兩三度も御付合申候。上々事故、近日朝之内、自身御出被成候而、縁女ニも御逢被成候。其上ニ而青山ハも御覽被付候模様并家柄之様子等、御咄被成候上にて青山ニ而談合、変改被致候義は不苦候間、何分自身御出可被成候。自身御出候へハ此方ニ而直ニ御咄申談合都合能候旨、明日ニも参り得ト〔ムシ〕逢呉候様頼申候所、兵次も同道不将之趣早速罷越、右之旨可申述由ニ而帰ル。尤酒水のかわりニ爲飲申候。予カ了簡ニハ、昨日

見へ申候五藏とやら申ニハ、以来は此度之御掛合ニ付度ニ参上、御かけ合可申ト申聞候半ト、又々一兩日之内ニ爲名代罷越、縁女等ニ逢可申なと申て可参やト相考候。まもなく趣申遣候。いつれニしてもケ様ニ可申道理也。
〔ウ〕

今日神原ハ人來ル。又々もちまへの留飲ニ而不食嘔逆心痛。夜不得熟寢。當月四日ハ引ニ而部屋ニ罷在候。見合四五日も同様ニ候ハ、内ハ参り候而療保可致由、先爲知置ト申事也。松平乙五郎様ハ鹿沼十郎左ニ門手紙、昨日は書翰方之者不調法ニ而只今迄度々之儀、甚御氣之毒千萬、右之段呉ハも宜敷可申候旨、乙五郎様、岩吉様之爲挨拶、元之助方ハ申來ル。端書別紙等ニ而丁重ニ申訳來ル。且昨日之替日、可相成〔ムシ〕申候様申來候間、十三日、勘助罷出候上ニ而可申由申遣、返事致候。十二日辛巳 朝曇、昼ハ快晴。暑色不堪。尤前夜ハ雨。今朝も少ッ、ふる。

讀書如例。大人、今日ハ始而戸沢富寿様〔當年三歳被成候〕御屋敷

に御出被成候。継上下也。先日、大嶋勘兵衛、菊池に相

談、頼ミニ付而也。八ッ半時少過も御出被成候而暮六半

頃御帰宅。尤雨ヲ御見
合故少遲元之助、今朝、稻垣信濃守殿定日之

所、差懸り用用故障之由ニ而断来ル。四ッ比人来ル。使

之者間違ニ而御断延引□□^(ハシ)断申来ル故在宿。勘

助在宿。居風呂立。升屋新七□□^(ハシ)手代衣類持来ル。大

人、戸沢ニ而は年寄共爲始大勢聴講。少々御馳走□□^(ハシ)白

賁に御使は仁古七平也。昨朝百藏悴病死ニ付青銅貳拾疋

□□^(ハシ)今日は甚敷蒸暑不堪。夕も暑雷一聲催夕立申

候。暮六比も雨。乍然沾塵而已。

十三日^{手平}朝も曇。時、微雨。夕迄蒸暑不堪。至而熱

ス。夕七ッ時比も西北も黒雲起り頻ニ雷。七ッ半

比甚敷大成雷三聲、小中の聲不可数。暮比□□^(ハシ)

□□^(ハシ)入夜月夜。月ニ微曇在リ直ニそばニ小曇も

有り。雷雨も涼甚し。

讀書如例。大人、濱町能登殿世子御断来ルニ付御在宿。

一兩日蒸暑く甚敷ニ付少々中暑之御氣味也。香需散など

御服用。元之助、四ッ半門前も濱町加茂数右ニ門方

爲稽古参ル。参りかけ宰首座同道。先方夕七ッ時帰り之

處、塗中雷鳴甚敷、京橋邊も土橋あたり迄甚すさまじき

□□^(ハシ)ニて頭上の黒雲の中より電光甚敷、三度程雷鳴之甚

□□^(ハシ)ニ而難儀。土橋も大雨。夫も飛緩是和泉侯之中邸

に参り、野上欽助處にて雨やとり致候而酒出したとし、

暮比帰宅。甚癒。勘助、小幡延引ニ付在宿。東海寺方

丈より宰首座使僧にて先日相頼申候染筆物出来致候由ニ

而、爲持被送候。外頼も在リ予カ方のもあり、酒出し申

候而参りかけ、予同□□^(ハシ)外無事。

十四日^{癸未}快晴。涼氣。今晚六ッ時麗敷雷雨、常の雷ト

違ひ鳴出し申候もなりしまいまで少の間断なく、

ごろくぐわらくどんくびしゃくつづけさ

まニ鳴、其中聲の大小ハあり、雨もよほと雨な

り。予ハ雷すきなれ共、木曾以来甚こまり申候。

讀書如例。大人、朝四ッ時も松平能登守様を御出被成候

而八ッ半^{前少}時御帰宅。元之助在宿。勘助八丁堀松平求

馬之介様ハノケノサマ柳世子ヤナギノミコと參ル。ハシ断也。今日榊原ハシノの人遣ス。四ツ時出往治遣ス。八時半時戻。明日ハシ出勤先下り候

事見合ハシ也。茄子十五遣。今日七ツ時分ハシ又々雷雨甚シ。夫ハシ始終雨色ハシ催し曇。夜、陰晴不定。今朝、菊地

三二郎入門。白賁ハシ万藏来ル。ハシ根ハシ「オ」来ル。三十本ほと也。

十五日甲申終日曇。昨夕ハシ涼甚。今朝可用複衣。夜

半ハシ雨、用絮衣。

讀書如例。大人、小進次公子定日之所、御迎不參ニ付

御出無之候。夕七ツ時少前ハシ渡邊中務少輔殿ハシ御出被遊

候而、夜八ッ半少過御帰宅也。元之助在宿。今日、儀

礼會讀故也。勘助、麻田青木右京殿ハシ參り、夫ハシ會讀

出席。野上欽助方より先達ハシ而婚禮祝儀、此方ハシ看遣し申

候爲挨拶赤飯一重来ル。青山遠江守様御用人、甲田大

助近々出足ニ付爲錢別巻斤入之曲物ニ鯉節味噌遣申候。

明日出足之由也。

十六日乙酉終日雨。冷氣甚、用綿入人多シ。夜同。

讀書休。大人、元之助、今日青山休ハシニ付在宿青山ハ嘉祥ニ付登城有之故

也。尤ウハ「ウハ」ハシ澤之邸ハシ御出被成候。夕七ツ時ハシ御出被

成暮六ッ時前御帰宅也。ハシ今日、河崎東馬相見ハシへ

申候。是ハ此間兵次ハシ此方ハシ呉、申聞候故也。伴ニ此間

參り申候五藏參り申候。酒、吸物、硯ハシふた出し申候。今

日參ル事は根本ハシ被頼候而、根本之身生向得ハシ御咄申且

色、間違候事も有之候ニ付得と青山のやうすなと御咄申

候而御承知被下哉ハシの事也。其上の事ハ萬事先生思召次

第ニ可被成ト也。昼時濟。尤、太母君并おてい逢申候。

夕方より元之助、十公うるし細工ハシニかゝり申候尤ハシ。

勘助、明日米津ハシ朝之約束之所、夕方ニ可参由御使申遣

ス。昨日夕方、長嶺爲藏見ハシ申候而櫻田伊東右京亮留守

居、平部ハシ波門ト申者、先生ニ懸御目申度候。尤追、

倅ハシ郎ト申當七歳者ハシ相願申度、一兩度も同道仕

候而參り御なしミ付ケ申候上ニ而老人差上申度、萬事之

事迄御下知相願申度候由ニ付、先波門御目ニ掛申度ハシ。

由也。夫ニ付勤先ハシ參上も致可申由也。此方日々世話敷

事ニ而留主ハシも御出、氣之毒之段申聞候へは、夫ハ先方ハシ

も得と申聞置候由、左候て勝手ニ被見可申由申候。伊東

の留守居ハ江戸ニ十年詰申候由、今朝稽古ニ爲藏見候節

木のうすくへき申候日和笠頼申候。値ハ式匁五分

也。うらニ糊入なと入候而なりハかまほこなりニト頼申

候。此方ニ而ハ至而深くト而値ハ四匁ト七匁五分迄也。

十七日丙戌 朝甚敷曇、昼比ハ漸ニ晴、夕快晴、暑色

甚。夜涼月。

讀書如例。大人、本多伊与守様ハ四ツ時前ハ御出被遊候

而夕七ツ時前ニ御帰宅也。夫ハ福田本兵衛方ハ七ツ半比

御出。夜九ツ時少前御帰宅也。元之助在宿。勘助、松

平乙五郎様ハ参ル。今日ハ蒙求會讀始申候。尤、小幡侯

も培席被致候。夫ハ米津公子ハ参り申候而暮六ツ時帰

ル。今夕七ツ時ハ太母君、東海寺御参詣のために白銀邸

の叔父方ハ御投〔ウ〕宿ニ御出被成候。山崎主税之助殿

より明十八日兼而三人共別宴に罷越申候筈ニ而先日從此

方申遣候處、外勤無據有之由ニ而断来故、今少先ニ寄候

而可申上トの事也。明日爲東海寺御参詣太母君白銀ハ御

出被成。

十八日丁亥 朝曇。昼後ハ快晴。暑色甚。

讀書如例。大人、四ツ半比ハ比、谷牧野日向守殿先達而當日着

松平和泉守殿着當月四日、水野右近少監殿着五月下旬 三ヶ所ハ

御悅御出被成候而八ツ半時過比ニ御帰宅也。元之助、一

本松無之ニ付在宿、且留守番。勘助、朝四ツ時比ハ森川

兵部少輔殿ハ参、昼過帰ル。今日、妙解院ハ参詣、おて

い参ル。参りかけ白かねハ寄申候。朝四ツ前出宅。夫ハ

白かねニ而不残同道。東海寺ハ参ル。太母君、暑ニ御堪

不被成、塗中ハ御休息。帰路高阡之茶屋ニ而叔御逗留

之御馳走旁、酒等あわひ之酔具等ニ而暫御休被成候由。

尤妙解〔ハシ〕銀子式匁九分持参。白銀より式匁ほとも持

参。不残子坊まで仕度猪口、平、吸物ゆり 硯ふた、井等

出申候由。夕〔オハ〕七ツ半過帰ル。太母君、今日御〔ハシ〕留。

留。松平遠江守殿ハ明後御迎上可申段申来。今日、大

人、松平玄蕃頭殿月並老度之定日之所、十七日勘助参ル

節断り也。月末替日被成下候様ニ且發駕も近候間、當日

夕々御出、暫次ニ而御咄申度ト也。藝州之廣嶋者當時無息勤無之医者坊ニ而宮木元昌も懇意、長喜庵いとこの由。笠坊元達ト申者、當春遊学之ため都下を罷出、急ニ

如雷承り及申由、何とそ御教授相願度由ニ而長喜庵手紙添、是も吳々之頼ニ而來ル。大人、御帰之(ムシ)故鳥度御

逢被成候。元之助逢申候。此方日夜世話數段申聞断申候。了簡違ニ可成由申候へ共、達而ト申事故、以後毎

朝、左傳持參致し不審御尋可申、講席詩會之席ニも出申度由也。然ル處、其後不(ムシ)也。廿三日詩ヲ乞候而見候へは

失韻之詩など大音聲ニとなへ大ニ氣母ヲつぶし申候。一笑。加寿もおてい婚儀調申候由ト申文言而爲悦悅硯(ウハ)ふ

た、盃來ル。元之助廿(ムシ)日之所、廿八日申遣ス。十九日戌子 朝曇。四ッ比も大好南風、揚塵烟甚。夕も

晴甚暑。

青山、大人、元之助如例。朝四ッ半比出、夜四ッ時帰。

尤今日籃輿出申候。勘助在宿。青山、山田吉太郎ト申者、娘當巴三歳(オキ)病死(悪痘也)。今日初七日ニ付壺屋饅重尅

重遣し申候。是は十太、三娘おいく片附申候先ニ而、御作事方書役、三十俵ニ之御家人、右之談合故遣シ申候。

廿日己丑 朝も快晴。暑甚敷、當年中之暑之由、人皆申

候。今日酒一樽ととのへ申候。

讀書如例。大人、森川宇部少輔殿定日之所、昨日断來ル。代日(ムシ)へ共、日合無之、廿六日元之助定日

故御断被成候。夫故今日は御出無之、夕七ッ比も鉄砲洲、松平大膳亮殿を御出。夜四ッ前御帰宅。今日之暑ニ少御

中成候。元之助、朝四ッ前も松平乙五郎殿を參ル處、明日内藤豊前守殿発駕之由、差懸り右之方を被參由断。岩

吉殿、初之助殿斗(ムシ)講釈無之。夫も柳生内膳守殿に參ル。暮入相前帰ル。不堪暑ニ而水八杯程飲(終日)也。此

節小水通氣惡敷、殊ニ少斗之腫も見へ申候而足いたくたるく(オ)日々こまり申候故、今朝よ(ムシ)三里之灸三双ッ

、相始申候。以後毎朝。勘助、今日約束ニ而塚本七左エ門參ル處断。喜和、末も断。留主にて番之由。甚不與也。

夫は稻垣より湯なとつかひ暮比帰ル。渡邊中務大輔殿（ハシ）筈来（ハシ）

廿一日庚寅 大ニ曇。朝冷七ッ比雨。昼頃蒸暑。夜も雨時ニ降。

今日詩會。東海寺内少林院。主人は上村元太郎、朝長約之助兩人也。四ッ半比出宅。大人始三人共参ル。夜四ッ時帰ル。詩會は六ッ時濟。尤御出かけニ高源院に御見舞。方丈にも御出。わかめのたつき、干温鈍一箱（ハシ）贈被成候。夫は御出席。席上は、季夏登少林後山望芙蓉

うしろの山上より富士見ユル。宿題は閏七夕（吳明卿之詩アリ）共ニ各體也。例年七月休會。當年は閏七月有之由。閏月之題也。院主も不相替冷麵（吸物ニみそはミ）出申候。大勢断て不来共此方又は主人等入候而十四人也。帰路雨ニ逢申候。高繩ははたし

也。今日、長谷川丹波守殿申来ルニハ丹後守惣領若吉奥方産後肥たち（ハシ）申候而當十八日被致病死候。右爲御知可申旨、丹後守被申付（ツ）如此（ハシ）由也。本

多千五郎方家来兵次来ル。手紙来。明廿二日元之助可

参約、自分不快は近々宜敷候へ共、妻又不快、人手入故ニ付断也。且御縁談も調候由。夫ニ付嘸御物入、御用も候ハ、無遠慮可申ト也。且元之助、根本方と参候て、東馬同道可申故、兵次迄爲御知可被成候。私ハ東馬殿と廻可候ト申事也。

廿二日辛卯 朝微雨。四ッ比曇斗。漸々晴。

讀書如例。大人御在宿。尤昨日之御代り講釈被成候。

左、唐兩方共在リ。元之助、稻垣信濃守殿定日ニ付五

ッ半比迎来ル。四ッ前（ハシ）也。八ッ時帰。今日ニ而當年

先相濟申候。膳膳付酒出申候。家語ハ第九正論解、第四

十一不殘濟申候。來夏出府之節は第十巻曲礼子貢問、第

四十二ニ始申候。夫は帰り申候而在宿。尤、秋元逸平二

ハ來月御發駕之節四五日前、序候ハ、御發駕之日限爲御

知可被下候、此方無人故聞合急申候段申候。承知之由

也。勘助、米津公子兵庫殿と参ル。（當時、飯田町邊之旗本方ハ養子被成候）

（一〇）下に被成候諸箱 然ル處、先方も御出無之、むた足ころ

也。夫は帰申候上ニ而又々夕方長谷川丹後守殿と弔

ミニ罷越候下付上。松平安藝守殿、十二日之代り日廿四日
廿九日迄之内御申越可被下由申来。則廿六日夕方ト
申被遣候。

廿三日壬辰 朝曇、冷氣。昼過夕晴或曇、或晴昨夜用復

衣。

讀書如例。大人、濱町岩村世子ハ御出被成候。塗中ニ

而手間取候由ニ而四ツ過迎御駕籠来ル。夫ハ七ツ時御

帰。夫ハ七ツ過時御出宅戸沢藩ハ御出被成候而暮六ツ

時御帰宅。元之助在宿。勘助、八丁堀ハ小幡世子ハ参

ル。五ツ時帰ル。今日ハ大工儀平ニ来ル。なかし元、

臺所の窓、門の屋根等普請也。小丁子ハ一人こし巾着

来ル。藝侯ハ廿六日故障有之故、廿七日廿八日兩日之

内差練御出被下候様ニ申来ル。御留主故、明朝返事ハ

人来ル筈也。おミな、昨日ハ歯牙痛風熱之氣味。荊防敗

毒敷ハ升加減老貼用之候。高野山ハ坊来ル。

理性院同ハ道也。も来ル。坊ト申は大機

院様之時分にも節々参ル。大人旧知之由申候。當年て三

刻翻『美葉館日記』(六)

十年程御目ニ掛不申候由、御志も被成候ハント申候。先
日ハ度ハ二度也。皆参り申候へ共御講中、御留主等ニ而残
念之由申也。戸沢ハ御出掛ニ而直ニ御逢被成候。今夕
六ツ半比敷下法華宗申キトより出火、沓間焼也。東北風
ニ而此方ニは宜敷候也。

廿四日癸巳 朝曇、四ツ比ハ漸々快晴。大暑不堪。夜半

後及暁雨。

讀書如例。大人、深川公子ハ御迎不参ニ付夕迄御在宿。

夕ハ七ツ半過ハ伯太老侯ハ御出被成、夜八ツ半過御帰宅

也。元之助、今日根本藤吉郎方ハ参ル。尤、今朝四ツ

過、河崎東馬来り、先日青山ニも参り申候所、家内一統

弥御所望申度由。右ニ付右之段先方ハ御申、且御見合御

出可被下由、被申吳候様ニト申候而藤吉郎見へ申候由。

左候へは弥御出可被下候へ共、先ニ寄候ハ而は屋敷ニも婚

儀願等有之、家來等世話敷御同伴仕兼候事ニもハ可

有之候間、差懸り申兼候へ共、何卒今日先方ハ御出被下

間敷や、左候へは私先ハ罷越待可申由申候間、夕方外断

申候而参上可仕由申聞、八ッ時少過出罷越。つき上下ニ而参ル。塗中(ハシ)不堪びつしより也。先方七ッ時ニ大

前参ル。藤吉郎もつき上下ニ而出、東馬待(ハシ)、早速(出)

のし出、藤吉郎出、盃出、吸物出カキきす也。こちのにつけ出申

斗也。夫々大隠居出えりん院ト申寺也、養母は愛宕四万六千日ニ付

参詣ト申事留主也。乍然夕方帰。是ニも逢申候。座敷は

暑熱故ト申、隠居部屋ト通ル。今日ハ何事も談合無之、

暮前帰ル。勘助、麻田公子如例。大工儀平ニ今日も参

ル。今日は臺所のまト一通り不残こしらへ申候。今朝、

本多ト人遣。是は兵二ト来ル廿六日夕可参由申遣ス。跡

ニ而河崎見へ申候而今日参ル事故あちこちニ成候。藝

州ト返事取ニ来ル。弥廿七日ニ極被遣候。右故廿七日能

登守殿ト断、今朝、欽助見へ申候間、欽助ト頼ミ被遣

候。廿七日、福田木工兵衛、七(ハシ)坊被遣、廿六日ニ代り

日被仰遣候。今日葛子魚調申候。(ウニ)

廿五日甲午天氣如昨日。大ニ暑。朝ト甚。今晚丑四

刻土用入此節毎夜催雨色、今夜も同。

青山如例。四ッ過時御出宅。夜四ッ時御帰宅。元之助同

様也。尤、今日例漢書會讀無之御留主故也。八ッ半前ト梶川伊

左ニ門方ト御出被成、暮六ッ半過、稲野ト御帰。夫ト御

帰宅掃路田間之螢火三疋取。勘助ト在宿。大工儀平ニ参ル。今日ト門

の屋根ふき申候。尤杉ト間、杓寸板三ッ切ト用ユル也。

柳原ト使来ル無事桃果十来ル。外無事。

廿六日乙未終日終夜快晴。大暑不堪。尤朝少之間、四

讀書如例。大人、松平能登守殿ト朝四ッ時前御出宅被

成、夕八ッ時比御帰宅也。夫ト御在宿。元之助、森川源

之丞殿ト朝四ッ時前ト罷出、昼九ッ時少過帰宅。夫ト在

宿。勘助、終日在宿。今日も大工儀平次来ル。今日は大

門之屋根板不残取替、むねニ瓦置申候。未濟。家来老人ト、屋

根墨塗等致し申候。仙臺之藩新井彦七来。當度出府、号瀛洲、一号龍潭、當

洲義實之孫也。右時仙臺之儒者也。新井彦四郎、滄下金海鼠一連仙臺一袋已上ト爲土產持参。御帰宅後故御

逢被成、元之助も逢申候。御酒出し申候。殊之外悦申

候。大人、元之助共盃遣申候。○金華山のき(ハシ)ニハ當時ハ大坂其

難成由。尤白朝庭命下リテ、右之事有之也。○万藏来ル。茄子廿

此金こハ海中金華山の影うつる其下の海眼也。。當年始（ハレシ）而也。納申候。すもゝ小二升、小むぎ

納申候。夏大根三把三十本也。大麥へはだか苞斗つねの麥 福

田木工（ハレシ）爲暑氣見舞、桃齡酒老樽三升来。大崎の子五升大茄子

けん少来ル。

廿七日 丙申 晴快、暑不堪夕、催雨色不遂、至夜五ツ頃少

降申候。

讀書如例。大人、松平安藝守殿（ハレシ）五ツ半少過御出宅

寤成候而七ツ半大過御帰宅也。元之助、本多伊豫守殿

に朝五ツ時少過参ル。昼九ツ半過帰ル。麻上下出目六も出申候、紋

付上始。横麻けんほう也。勘助、米津世子（ハレシ）断来ル。柳

世子斗（ハレシ）に参ル八ツ半前時も出、暮六ツ帰ル。今日兼テ富永元珠本多伊豫守

約束ニ付（ウニ）西臺侯之和牘（ハレシ）二通相贈り申候。下谷武

田三右エ門養子辰五郎来ル。長坐、詩など勘助ト作り申

候。ところてんなと馳走ニ出し申候。主僕共昼食出ス。

今日横割申候。菊池（ハレシ）もち春うすきね両様かりニ来り、

則かし遣し申候。深川小近次公子（ハレシ）御手紙来ル。最早

暑中ニ付例年之通り講釈御休可被成候ニ付此方も相休可

申由也。尤先達兩度迄御約日御迎不來致、此方如何之段御申被遣候所、右之返事は一向ニ無之候。

廿八日 丁酉 朝（ハレシ）曇、一、二度少々雨ぱらつき申候。今

日ハ昨日（ハレシ）少涼氣。

讀書如例。大人、小幡（ハレシ）十七日之代リニ御出被遊候。四

ッ少前御出ニ成ニ而夕七ツ時比御帰宅。元之助、今朝五

ッ時（ハレシ）出宅。牧野日向守殿、林大学頭殿、目黒道塚場、柳

原等（ハレシ）暑氣見舞ニ参。柳原ニ而

暫時咄、夫（ハレシ）今日ハ廿三日之代リ加藤数右エ門（ハレシ）に参ル。

夕七ツ時ニ先方仕舞、夫（ハレシ）帰りニ波仙集補破平水三左エ門

之事談合ニ須原屋（ハレシ）より申候。酒、井鉢等出し申候。

尤重五郎は此度おいて、片付之節仕舞暮六ツ半過、五ツ前帰ル。勘助、塚本七左エ門方（ハレシ）

約ニ付参ル。稽古如例。當年吉原観燈之事申談是ハおいて、此

一度爲見置可申先方ニ而も、弥被参候間、塩留（ハレシ）舟ニ而も可参

や、左様ニ候ハ、此方ニ一夕御出、御止宿被成（ハレシ）可然始而

御出と而御一面（ハレシ）にてハ先方如何可有之哉ト也。宇多松

次郎、爲暑氣見舞例之通酒肴升来ル。小川恭意（醫州）方（方）
中こち之魚（本）石州之若布来ル （恭寛ハ笠場元遠元、昨廿七日ニ右ノ長屋
之前ヲ御通之節、大人始而御寄被成御逢
仕候、申事也。）遠田侯より手紙来ル。最早大暑ニも相成候

間、明廿九日（例年之通稽古事被相休申候ト之事也。白
かねおおちぎ御出来ル。大工儀平二来ル。處々致しこの
り、垣根つくろい、浴室のなをし等也。）

廿九日（戊戌）朝（曇）。此節日夜曇、蒸暑今日昨日（甚）。
青山延引ニ付大人、元之助在宿。元之助は今朝戸沢
藩（始而参り申候。朝五ツ時（出）候而四ツ過帰ル。勘
助、八丁堀如例。木挽町等も暑氣見舞（旁々）参り申候。
今日は大工断之者来り今明日不参候由申来ル。）」（ウ）

七月 小

朔日（己亥） 好大暑、時々曇、蒸暑、夜五ツ頃催雷雨不
果。

御講釈如例。左傳定五年不残濟。六年經（唐詩選五言俳
律、自早發始興江口始而奉和聖制道度蒲関之詩迄濟申候。）

例年之通り今日迄ニ而暫御休講。當年は間も有之、其外
用多ニ付閏七月十一日（講釈御始被遊候。大人御在宿。）

元之助、松平乙五郎殿約之處、乙五郎殿登城後外勤ニ
付今日（始而蒙求ニ御出被下候所、是ハ御断申上ル。岩吉
初之助殿斗之積リニ而御出可被下候由。迎ハッ比来ル。）

ハッ半前比（出、右之通仕舞、小幡侯被逢候（跡ニ而新関治部
左門始而蒙求
素讀、予之時致候。尤今日、勘
助蒙求之所予致管本文之通断也。）夫々木挽町柳世子（白参ル所、世子
頭痛、外之者受取申候（尤柳侯等ハ暑見舞申候。
西良助にも参ル也。）夜四ツ時少過帰
ル。陰中（度々小雷
頻、催雨候）今日之暑甚敷不堪。）」（一四）大工昨日断ニ付

不参。榎屋之いせや清吉（爲暑氣御見舞、新芋かこ入
献し申候。勘助在宿。）

二日（庚子）朝大ニ曇誠ニ微雨。四ツ比（快晴、暑甚敷酷
烈不堪。）

讀書如例。大人、米津公子（愛宕之下屋敷ハ
被參之付御出被遊候）昼九ツ前（御出
被遊候而ハッ半比時御帰宅。御出前七才子元之助御聞合
申上ル。元之助ハッ時過（本多千五郎方ハ参ル。夜四ツ
時過帰ル。勘助在宿。渡邊中務少輔殿より爲暑見舞交

着物也。 沓籠来ル。 長嶺爲藏より暑見舞ニ芋籠入沓ッ来

ル。 且元之助先達而約束致置候たぶ之木爲持来ル。長サ三尺

に近。 是ハ日向之木也。 外ニ日向之 木にて拵申候筈来

ル。 代式勿五分也。是ハ新橋、伊藤侯殿敷内にて拵候物 今日ニテ、濟申候有之、右之者ハ頼置候所出来也。 大工儀平二

外ニ阿蘭作老人来ル。 合式人也。 子カ望ミすゝミ臺爲拵

申候外ニこしかけ沓ヲ、其外 今日度ハ催雷雨、夕ハツビ ○暮方迄度々也、遂不果。 (一四)

三日 辛丑 朝大曇斗、今日ハ涼氣。

讀書如例。 大人御在宿。 少々中暑之御氣味也。 元之

助、戸沢藩を参リ申候。 朝五ツが四ツ時迄也。 今日にて

當月下旬廿四日ニ参リ申候積り也。 尤當月一はい休ミ可

申所、先月が稽古相始申候ニ付、皆々取急之ためニ下旬ヲ

約し申候。 帰リニ近所暑氣見舞申候。 勘助、松平乙五

郎世子が柳世子を参ル。 小幡世子ハ今日が元之助之代リ

家語始而講シ申候是ハ元之助例月晦日ニ一度ツ、蒙求致候間其替り也。 四ツ時少過出候

而暮六時過帰ル。 伊藤族暑氣見舞来ル。 酒等出ス。 加

茂も来ル。 瓜出ス。 鍛冶橋松平能登守殿が暑中見舞例

年之通り塩鯛十一来ル。 柳原が土用見舞人来ル。 素麵

一ハこ眞瓜十来ル。 外ニ青銅式百銅、爲夕鱒来ル。 是ハ

鉄姫殿先頃被致瘡瘡候處、順痘復本被致候ニ付爲悦目六

いたゞき、右之爲初穂、太母君、大人を御上ケ被成候の

也。 使之者を昼食出ス使之者 願候故也。 且先日後、兎角同篇ニ而

先日が頼候町医も二まハリニ成候故断候而(一五)又々鉄

姫殿預リ之町医者原長川ト申者に見てもらひ申候所、痰

も御座候へ共、氣分之事ニ而御座候由。 右故氣分保養第

一ト申候由。 右之者を又々頼申由申来ル。 家来住治、

先月廿九日が不快。 朔日二日ト藤川之葉貫申候尤三貼也。 今

日は貫不申候。

四日 壬寅 朝が微雨、終日或降或不降。 夜も同し。 涼氣

寢用複衣可。

讀書如例。 大人、森川源之丞殿が四ツ時比が御出被成

候而九ツ半比御帰宅。 夫が御在宿。 元之助、加茂敷右エ

門約束致置候所、昨日暑見舞ニ見ヘ申候而今日断故不

参。 當月下旬廿六日ニ約致し置申候。 勘助、麻田公子

如例。 須原屋重五郎来ル。 是ハ先月廿八日ニ予参り申

〔ムシ〕此度之婚儀ニ付とゝのへ者等頼申候所、右之事は

私も遠方、其上格別功者ト申程ニ而も無之故、私至而懇意之道具屋、西久保下谷町富田屋伊助ト申者有之候間右之と者とくと内談申聞置〔一五〕しよさい無之様申参候。

同道致し参上可仕由申聞候所、今日右之者同道ニ而参り申候。酒なと出し右之事頼申候。高野寺之理性院より

甘瓜沓籠暑見舞ニ来ル。内田秀次郎も酒沓升同断。京

僧伊之助もいも沓かこ同断。家来住治越後唐山人今日も起候而少ミツ、はたらき申候。

五日癸卯 朝も曇。蒸暑。昼も時々晴。

讀書今日迄ニ而休ミ申候。尤例年當月朔日も休ミ申候所、當年は閏七月も有之候事故、今日迄ニ而来ル閏七月

七日も相始申候。大人御在宿。元之助、勘助在宿。今日儀礼之會、大射礼自〔ムシ〕射適次始ル。私本ニ而大射礼五枚残ル柳

原も爲土用見舞、南瓜沓ツ、小鱈三十六、あかえひ小重箱ニ沓重、右之通り遣申候。さとう沓壺来ル。小はた

侯も爲暑見舞葛粉一酒升来ル。森田公子も勘助方も小交

肴〔一六〕中ひらめニ〔オ〕来ル。大門の屋根ぬらせ申候。

六日甲辰 朝も曇、夕八ッ少過も大雨。雷鳴甚、処々

落申候。其緊如震動日光邊も出ト見ユ。雷ハ

五六程も成申候。七ッ少過迄鳴申候。雨ハ半

比迄降り漸々止ム。東方ニ虹出申候。暮六ッ

少過、又々ころ付申候。大ニ曇四ッ半過九ッ

比も快晴。明月耿々。朝も炎蒸、晚涼。

大人、元之助、本多伊豫守殿明七日發駕ニ付爲暇乞八ッ

時比も可参處、雷鳴甚敷故見合申候所、七ッ半比も出申

候而先方も暮前至ル。大人、五言律律之送別一首御上ケ

被成申候。大人之御寿詩清書出来之由ニ而被贈候。尤麻

之帷子〔紺定〕一具、銀沓枚被贈申候。元之助は五言律一首

送別申上ル。馬谷など参り講咄、夜五ッ半時過、四ッ比

先方出、半〔ムシ〕帰り申候。勘助、京極沓岐守殿も暑気

見舞ニ参ル。夫も森川源之丞殿爲稽古参ル。尤當月は休

ミ可申所、森川侯當八月は封邑〔頼〕参候ニ付稽古事

遅なわり申候間、隼之助頼ミニ付今日参ル。右ニ付當

月(一六)□今一度参ル約束也。下旬之事は先方も聞ニ来ル筈也。例年之竹ニ短尺(ハ)付候(ハ)書付ニ候而乞巧ニそなへ申候。

七日乙巳 朝々晴清涼。

大人御在宿。兩人共同様。七夕之御仕儀如例。白銀之叔御見へ被成候。酒、素麵等饗し申候。僕も酒出申候。今日も虫干始可申所朝々昼天(ハ)相ニ而見合、盃等干申之候。尤藏之押入之分大方出し干申候。昼々快晴ニ候へ共、白かねも見へ申候なとにて書物は干不申候。礼客等少々有之候斗にて外無事。

八日丙午 天氣極暑不堪

大人、元之助、四ツ半前より一本松山崎主税之助殿に暑氣見舞、且爲晦乞参ル。病氣、中暑之由、延引也。大人に麻之帷子薄淺黃、病氣、中暑之由、延引也。出申候薄淺黃、病氣、中暑之由、延引也。兩人に金式百疋是ハ例年之通定日、稽古ニ参ル故目六也。ツ出申候。

御出之上ニ而上候段、甚略儀之断丁寧ニ有之候。夫々(オ)家中不残暑氣見舞申候。大人、御付上下、元之助

暇乞之心故、麻上下四ツ目着用致し一本松ツ仕舞、つき

上下ニ着替申候而、大人同様ニ松平主水正殿家中伊達遠

江守殿家中京極老岐守殿家中右之方々暑氣見舞相勤申

候所、夕八ツ時比ニ少過罷帰。所々家敷中笠かふらす暑

氣ニ大ニよわり、頭痛等ニ而元之助甚難儀致申候。勘

助在宿。今日も書物之虫ほし始申候。尤土藏ノ二階も相

始申候而、先二階不残仕舞申候上ニ而二階下漸々干、方

々ツ、掃除致可申、當年も例年如此ニ致し可申。

九日丁未

大人、朝五ツ半過り牧野日向守殿、林祭酒、細川越中守

殿、戸田采女守殿、堀又七郎殿御隠居、右兵衛亮夫々松平和泉守

殿に御出被成候。尤暑中御窺也。(ハ)にてハ御逢可成由

にてしはらく御待たせ、其上ニ而口上ニハ師ニ對して甚

不将(一七)にて候へ共、只今無據用事取懸、仕舞候迄御

またせ申候も余り失礼故、御目ニ掛り申間敷段、侯之口上

ニ而申出ル。夫々昼食出申候。吸物、酒出。家来も仕た

く致申候。八ツ半比御たち被成、夫々松平大膳亮殿に御

出被成、柳生但馬守殿も御出被成、御酒等出申候而暮六ッ比御帰宅目黒道塚英元之助、朝六ッ時過御出塚神崎藤馬方

に青山一件ニ付参ル。用談仕舞、藩中所々暑見舞申動、

五ッ半時青山塚本七左ニ門祝儀ニ参ル。酒出、亭主留

也。上吉原觀燈之談合等致申候所、主人不在故不極。い

つれ十七八日比ト申事ニ候。稲野ニ而昼食。家来朝飯頼

致宿を遣し、青山ニ而高田を頼ミ受取置申候。半紙二

メ、諸口五束爲持、先ニ返し申候。予ハ神保大八を當

月富士を参ル談合ニ寄候所、神保藏多嫡子昨日病死ニ付

見舞、八ッ半比帰ル。尤山田吉太郎もより申候。勘

助在宿。今日土藏二階之分不残出し大掃除致し申候。書

物虫干如例。万藏来ル。（一八）茄子二百二持来、納

申候。尤掃除も致し申候。十公六ッ時過浅草藏前に

参ル。夫もかいもの等、柳原もも水瓜を持ッ持上り申候。

御文参り申候。外無事。

十日戌申 晴、暑色甚。

大人、元之助、勘助共在宿。夜分ニ入、今日ハ四萬六

千日故、近所之觀音堂をおてい参詣致し申候。おたミと

の一所ニ参り申候。ころひ候ハんと存しとよめ申候所、

中ががつてんせぬゆへ遣し申候所、すとんところび申

候。勘助、夕も齒痛ニテ難儀、用清胃散。明朝痛止、

藤川も比巴葉湯本方二貼もらひ申候。

十一日己酉 南風甚敷揚黒塵、炎暑不堪。

大人御在宿。元之助在宿。勘助齒痛ハ大分亘敷候。未

腫（スレ）したい、今日谷中邊を可参所、右ニ付延引見合申

候。盆使等ニ而（一八）外無事。虫ほし如例。

十二日庚戌 今日も烈風揚塵、炎暑甚敷不堪。

大人、田町之久留嶋侯も暑中御見舞ニ御出被成候而、夫

青山遠田侯も一昨日例年之通目録紙等之御礼被受取ッ

御出被成候而、塚本等も祝儀ニ御出被成候而、帰路高木も

御より、夜四ッ時御帰宅。夫も湯など御召被成候而、今

日等之御咄（説話）元之助等之咄ニ而夜いつれも八ッ時休

ス。元之助などハ夫も又々彼是致し七ッ少前休ス。元之助、稲垣信濃守殿暑中見舞、早朝六ッ少過も出、夫も

十五日富士の参り申候約之談シニ付飯田町火消屋敷之近所、武藤一郎左ニ門ト申柔術之師之處に参ル。談合濟申

候而、紙屋自身道中入用之ひとへ羽織、單衣等とよのへニ参ル。堤三藏茶かふ。洗極上甘松巻友ニ付代四十八銅。夫々竹内長藏へ暑中

見舞、且用事等有之参ル。是ヘル少、泉眞人之事ニ付而也。昼(一九)九ツ比歸ル。勘助在宿。今日ニ而二階之分書物虫ほし大方濟

申候。此節日々烈風故、やふれ申候本ハ干かね申候。早々二階下之和本ト入違干申候。勘助藤川に参り菓もら

ひ灸治等致申候。
十三日 烈風酷暑、但風南西。夕方少休ミ夜又甚。

大人、御機嫌能被爲在候、御在館。元之助様、品川東海寺少林院に御墓参。御帰路方丈に御たち寄被成、大珣

大和尚御逢被成候。御早く御還席。自夫白銀武叔君に御出被成、拟今度富士参登ニ付、道中輕便ナル大小刀御借

用被成御帰宅。但平旦御出宅。其節十太も從、泉岳寺房雲院墓所参詣ニ付、御出懸御同伴被遊候。御帰之節、十

太、方丈にたち寄不申候故、先キニ御戻シ被爲遊候。

昼時後御還十太ハ泉岳寺ニ参リ屋比掃申候。勘助、今日例年之通、谷中瑞林寺中玄妙院に参詣致候。玄妙院住持、去年なをり

未一向不案内、所書并御暮處等段々申聞候。右住持、名普明と申候。例之通法寿院様、延寿院様、元惠様、御

花、清水上ヶ拜香。尤大人御初之御代拜相勤申候。例年之通り南鎌一片、茶湯料進申候。夫々下谷武田三右ニ門

様々暑中見舞ニ参り申候。當年は二條在番、其上二條着之節、盜警御座候而城門甚嚴敷、且其事相濟候後、在番先

仲間老人病死ニ付、當時以之外セ話敷ニ付書狀御安否不伺段、御内儀被申候。自此も大人御名前前御直書之書狀一

封被遣候。右は今般おてい様御縁段ニ付親類書先(二〇)方指遣候節、御手元名前様子ニ依り書出可申候故、其

心得可被致候との御事也。武田氏ニ而上下二人昼食致し、自夫永昌寺徳水院、隨器様、隨信院様墓に参詣致候。

自夫浅草正念寺中本行寺、道玄齋様、慈雲院様に墓参致、本行寺に銀子貳匁、例年之通被遣候。自夫藤堂和泉

守様御中屋敷、入江仙十郎宅に大人御名代として暑中相

勤、谷十次郎、深谷茂十郎宅と自分暑中勤、自夫元鳥越、佐竹亀丸様御用人、大内新八并子息重内殿宅初見舞

申候。酒出暫、咄罷婦申候。自夫柳原おは様御見(ウ)

廻申候。先月中と御不快り而此節不出来之方故、下宿被

成、暫御保養被成由也。右ニ付廿日前と申候處、彼是用

事ニ而廿日過御下り可成由、太祖母君に仰遣候得共、兎

角腹さし込胃痛致候間、少も早く下り度由被仰候間、十

九日御下宿之積致御約申上候。帰路處ニ而買物致、晚

七ツ時半過帰宅。今日虫ほし休ミ。東海妙解院に例年

之通金子三百疋御茶湯料被遣候。地守長右ニ門、今日地

主村田卯七方参り候ニ付、地代金例年之上閏月を加へ遣

申候。水代百四十八文被遣候。中元祝儀使處ニ有之

候。

十四日 烈暑、大風、朝霧あり、此節甚敷早ニ而處ニよ

り井水絶、難儀致候由也。今日土用をわり。

(オ二)

大人、御機嫌能被入候。福田助右ニ門方と先日御セ話

致し三禮儀疏之代金左之通書付上申候間、被遣候様申来

○三禮儀疏拾六帙

右書物料運賃雜費惣メ金五兩と銀八匁也。

右之通御序之節被遣候様申来。但御本は旦那御七話被申

候と也。代金ハ本メ勝手役より申越候間、御目ニ懸置候

と之文言也。然處、此節人差間ニ而未遣不申候。

野上欽助、中元之御禮申上、金百疋例年之通御肴代とし

て上申候。明日、元之助様富士山御登遊ニ付今日は

大取込。虫ほし延引。元之助様、山下谷圓純師に御出

少ク御用談有之候。此度、富士御用ニ付升屋と

綿ちとみ單衣こしかけ御調被成候。但外買物等大分有之

候。別記ス。勘助、夕方瑠璃光寺に例年之通銀式匁程

持参。佐用氏茶湯頼ミ申候。夜御餞別。元之助様事之

外御機嫌ニ而明朝御待兼之御様子也。

十五日 晴、大暑、烈風。朝夕甚蒸氣。不宜人。

大人、御機嫌よく被爲在候。元之助様今曉七ツ時と起、朝食

こしらへ、御仕度六ッ時比相濟、御出宅被成候。尤、勘助、十太、青山善光寺先、左京大夫様御屋敷邊迄御見送申候。但青山海道へとうげん坂より三軒茶屋二子之渡シッ濟、あつぎ宿に御投宿也。勘助、十太、白責廻り申候。(二三)元様御同伴、武藤一郎右エ門へ善光寺邊ニ而御出會。自夫御御同道也。家来一人へ勢多ヶ谷迄御供致シ、自夫馬一疋御取被成、武藤氏、手前、両家来差戻被致候。○万藏来。今日少、虫ほし致候。中元之御祝儀申上、例年之通り也。

十六日 大風、大暑。誠凌兼申候。塗中へ沙塵ニ而烟霧(ニ)似タリ。宅中へ大沙吹入、人々髪共赤ク相成申候。

大人、御機嫌克被爲在候。勘助、此間之書物料、福田氏に持參致し、右居宅長屋深川箱崎ニ有之、朝四ッ時比ニ參付候處、最早出番致し候間、内方へ逢様子承知之上、龍口御上屋敷に參り、番中申込直ニ逢、金子相渡シ山(二三)禮申述罷歸申候。青山秀五郎見へ申候。同道

致し寺内闍魔に參詣致し、夕被戻候。明日、塚本氏家内衆同道、吉原觀燈可致候旨、昨日、塚本氏より手紙參り候間、今夕その仕度共大混雜致し候。虫ほし休。

十七日 極暑。風静なり。

大人、御機嫌克被爲在候。勘助、お貞様、お巳奈ほう、下男下女召連并十太を誘引致、塚本氏内儀、同喜和米妻、子供男女二人ト吉原に觀燈ニ參候。右は兼而申入、同道致度由申置候處、塚本氏ニ轉役致し桜田御本家之御先手物頭役ニ被成候間、延引ニ相成、今日相催候。畢竟此度おてい様御縁談先熟候間、塚本氏花むけとして(二三)被振舞候と也。右ニ付合色塚本物入也。朝五時出宅、汐留舟宿よし野屋甚四郎方ニ而塚本氏衆と出會致、夫より小屋方ニ而船酒、硯蓋、鉢肴二品、餅くわし申候。兩國邊に參、あわ雪、奈良茶ニ而昼食濟、又、浅草觀音へ參詣致、彼是ト七ッ時比ニ相成、夫より吉原に參り塚本出入之茶屋武さし屋喜八と申者宅ニ而酒肴爲出、夜五時比より觀燈致、帰後夜食を吃し、又、戻り船ニ而下川

致潮引、築地ニ而陸ニ上リ船宿ニ參付候處、曉七時過ニ相成申候。塚本氏内儀兩人、子供二人、下女老人、おてい様、おみな、下女一人船宿ニ投宿。勘十、下男ハ帰宅致し最早夜うすく曙申候。翌朝五ツ時又ニ迎遣申候。

五ツ時半皆々^レ御帰宅。今日虫ほし休。

十八日 快晴。風靜、暑甚敷蒸熱。朝夕ハ少涼。

大人、御機嫌能被爲在候。勘助在宅。虫ほし如例。

昨日之草臥ニ而萬事はかとり不申候。

秋葉権現清酒献享致し候。

十九日 北風。暑氣少シク減。朝夕甚涼。夜風益緊シ。

大人、御機嫌克シ。勘助在宿。虫干如例。七平、米

壺白擔申候。夕方ようく仕舞。柳原^ハ御使來、兼而

今日御下宿之處、内々差支有之候故、廿一日、廿三

日之内下り申度由也。神崎藤馬方^ハ縁談向ニ付御手紙

被遣候。然處、今以不快故直ニ返書不參、近日先^ハ沙汰

可致召口上申來候。

〔二四〕

廿日 北風甚敷薄曇、東北^ハ吹出、昼夜涼しく人皆蘇生

致し候。夕方ハ少々雨。入夜休。曇。

大人、少々御中暑ニ付胃茶散水煎ニ致シ上ケ申候。今日、西ノ大藏二階下之分不殘取出大片付、例年之通ニ致候。裏^ハおなつ殿、およしほう、七三參働き申候。但、

七三ハ番方夕方より參候。今日塚本氏^ハ使被遣候。是

ハ此間之乍禮、且鯉魚二尾被遣候處、此節不辱故、金子

百疋魚代として被遣候。奥^ハも塚本内儀^ハ御文被遣候。

白金大叔御出。尤御番帰^レ御たち寄也。雷之ましない麻

布長坂邊^ニ有之候。御尊被成候。〔二四〕

廿一日 終日雨。時々休。北風緊シク嵐之様子也。

大人、御病氣之処御瀉止申候故、香需散上ケ申候。勘

助在宿。今朝四ツ時半比、柳原早瀬様御病氣ニ付兼而

御願之通相濟、暫之間御保養として御下宿被成候。但送

之者例之通。仕度は手廻り不申候故、代物ニ而腰添ニ鳥

目百文、駕籠之者其外合五人^ハ鳥目三百文遣候。夫ニ而

相濟申候。叔母君御容體^ハ御食進不申、一日ニ兩三度

ツ、腹^ハ胃先さしこみ痛、夜中時々痛申候由也。神田邊、

原長泉と申町医之薬召上候。尤是も遠方故一度ニ十貼御
もらひ被成候。日ニ二ふくッ、御あがり被成候。右医者

ノ見たてハ脾胃(オ二五)虚弱氣不足之技サ也ト申候。○

福岡芳助參、私藩中医師岩崎玄仲不首尾ニ而屋敷暇出、

近、田舎ハ引越申候。右ニ付先達御世話被下候宗甫義、

先生御世話被下候處、一向學問手習無精ニ而御破門同

前、一生宗甫ニ學問等爲致不申候。若シ先生ハ御許被下

候ハ、又々爲致度由故、何率御筆御許之御手紙被下候

様願上候と申候。大人、同乍未相知不申候。今日、七

三郎、深沢傳藏方ハ石摺八品爲持遣シ、序ニ湖月抄九冊、

武徳編年集成二冊返濟致候。集成十卷より以後二冊、直

ニ借用致候。七平、白賁ハ茄子、白瓜等取リニ遣候。

序ニ万藏掃除催促(ハ)遣候。雨天故虫干延引。(ウ二五)

昨日、菊池久之丞被見、悴共御世話被下厚謝仕候。戸

沢藩大嶋勘兵衛私、方見ハ、先生初段、御世話被下候様

御禮申上候と也。其外借地致候節、地主ハ書出様事共咄

有之候。将又、稻荷小路ニ住居之後島侯之医者、名前未

知、悴…御講釈ニ上度由申吳候様と也。大人御承知被
爲遊候。

廿二日 終日嵐。北風時々大雨。其間微雨。大涼少蒸。

大人、御機嫌克シ。叔母君御不快御同前之内、昨日ハ少

々御不出来也。雨天ニ付虫干休。勘助在宿。夕方より

海鳴甚、蒸熱不宜人。十公半日働申候。

廿三日 蒸氣甚敷、西北風緊。

大人、御機嫌克被爲在候。万藏掃除ニ来。茄子、白瓜

丸漬、瓜納敷甚少シ。虫干致候。(オ二六)

廿四日 快晴、朝ハ少々曇リ北風。昼ハ南風ニなり秋暑

甚敷、人々不堪。

大人、御機嫌克。白金武藤叔君御出。但御番帰也。京

僧ハ右ニ門參上。早瀬様御病氣之事ニ及び、按摩之事御

噂有之候處、京僧兼而森川殿屋敷ハ出入扶持遣置候、も

う人岩崎幽節と申者、龍土神明宮横町ニ住居致居候者、

鍼治專一ニ致、官医坂幽げん様御弟子之由ニ而按摩ハ少

々御好被成候ハ、可致旨ニ付、則頼ニ置候處、早速承知

被致候。京僧請願寺酒出ス。 今日虫ほし有り。須原屋長兵衛上

り兼而御仰付、東坡集、頃日本店ハ参り繕之儀申候処、

普請等有之、且十冊と申数も有之候事故、手廻り兼候

間、手前方ニ而繕上ケ呉候様可申上様(ウニ六)申候。則私

方ニ而可仕哉と申候間、右之通り念入可致旨長兵衛ハ申

付候。今夕伊藤源吾殿ハ勸助参り、此度青山根本氏縁

組ニ付親類書談合致候。

廿五日 平旦ハ昼迄曇。九ツ時過ハ晴。秋暑如燬。

大人、御機嫌克。今日原長川ハ葉取リニ遣ス。神田鍋

町西大横丁也。尤只今迄ハ十服御もらひ被成候間、今日

初而取リニ遣申候。七平御使相勤申候。昨日京僧氏ハ

約速隊人医師幽節、則京僧氏ハ人添夕八ッ時比相見申

候。按摩并針治も御頼被成、跡ニ而少々動シ有之候得

共、又気分開候處有之由也。半時程手治致、夜食振舞戻

シ申候。帰之節ハ七平添遣候。地守長右ニ門見ハ、此

度心光院ニ而三万六千日之回向致候間(二七)御佛餉被下

候様、一等相願申上候。則四合入紙袋ヲ請取置申候。

但右三萬六千日回向ハ昔 大猷院様心光院ハ御成有之

候節ハ常念仏相始當(ハシ)日数也。尤四年以前ニ心光院類焼

ニ而此度本堂建利ウ致度本錢相参候心懸ト見ハ申候。夜

晴。

廿六日 朝ハ快晴、秋暑甚敷風なし。

大人、御機嫌克御在館。勸助、生実侯ハ例刻ハ参申候。

但シ當月ハ一躰ニ断申候處、来八月ハ生実侯初、御在所ニ

御出被成候故、出精致度由ニ而今日ハ参り申候。幽節

老見ハ申候。夜食出、暮間ニ戻り申候。住次様遣申候。

廿七日 早朝陰り漸々快晴。昼大暑、蒸氣甚シ(ウニ七)

大人、御機嫌克、今日十二日御定日之代、櫻田藝州侯ハ

御出被爲在候。但迎之御駕籠、朝五ッ時前ニ来り直ニ御

出。五ッ時比御参着。暫而御講積有之。夫ハ世子御居間

書院唐詩(ハシ)御講被爲在并世子御詩作五首御直し。次ニ

御退被成(ハシ)方之詩作二十首御直シ被爲在候。七ッ時前

時御殿ヲ御下り被成、夫ハ向邸留守居三人安井氏等残暑

御勤被成、且、神崎藤馬氏方ハ初而被爲入、暮前御起

座。六ッ時少過御帰館。右神崎氏共青山、根本氏縁談ニ付被爲入候也。今日、原長川老初而見舞、葉加減致五帖被置候。但吸物、酒、葛饅頭等出シ申候。京僧世話也。臈人、昨日鍼治致し跡甚あしき^(ア)動強く痛甚シ。

其上原長川老も針ハ、先見合可申旨^(ア)申候間、今日も断申候。嵩山房重五郎御婚禮買物ニ付^(二八)西大久保

道具や御せわ申上候が、御氣ニ入申候哉伺申上度参^(ア)勤助逢、暫時面談致戻シ申候。虫ほし。

廿八日 陰り涼し、昼も蒸暑。

大人、御機嫌克、今日小幡世子十八日之代日として御約之処、世子虫歯、積氣ニ付断参候間御在館。虫干今日

ニ^(ア)書籍之方は大概相濟申候。夜涼シ。快晴。

廿九日 朝陰り。昼も晴。秋暑甚。

大人、昼前も黒田甲斐守殿、久留島出雲守殿、残暑御見舞ニ御出被爲在候。今日、黒田邸中、宮崎九助ハ織部

居致、此間^(ア)候間、一寸御出被爲在候処、九助

氏在宿ニ而暫く^(二八)御咄被爲在候。田丁久留嶋邸之大夫、穂谷丈右ニ門方^(ア)御開合事被爲在候。七ッ時分御帰宅。^(次)今日原氏^(ア)参候取

閏 七月小

朔日 朝曇り。昼比も漸々晴、秋蒸暑氣甚シ。

大人御機嫌克。宅御講書ハ閏月故来十一日も御初被爲在候故、今日ハ無御座候。今日、大人、鳥羽侯^(ア)御出

有之候。右ニ付先月廿六日鳥羽侯御男子御出生、御歛之^(ア)先日辻字右門名前ニ而、此間中ニ旦那^(ア)政事向御咄

被下^(ア)頼^(ア)来候処、右御出生故、断手紙来り候節、爲知来ル也。依^(ア)今日御出之処、産穢中ながら御心安故御目

ニ懸申度ニ而^(ア)御待被成候処、平生之御仕度出ッ。御酒、御吸物等出申候。扱御^(二九)逢被成候時、政事之咄有

之候も色々治國民事之御咄出申候。跡ニ而舍人大夫平ラニたち寄可被下由故、残暑見^(ア)舞^(ア)旁、御出被爲在候處、

酒吸物色々御有問事御手^(ア)間ニ而取被遊、七時比故直ニ

御帰館。勘助在宿。虫干^(ハシ)相しらへ終日俗事ニ取紛候。

今夜六半時比^(ハシ)元之助様、富士御登遊^(ハシ)玉函きが

温泉^(ハシ)と御廻り被成、一廻りめくニ而御帰着被成候。尤、

武藤一郎左エ門道伴故、宅^(ハシ)一寸たち寄、夫^(ハシ)飯四丁迄

被帰候。秋暑御旅中無滞御着ニ付、御酒御盃事有之候。

二日 朝陰頭雨。昼^(ハシ)俄ニ晴。暑甚シ。昨日之天氣

相^(ハシ)。

大人御機嫌克、今日^(ハシ)金森公子^(ハシ)と御出之処、此節少々

(三九)御足指御怪我ニ而今日ハ御断被爲在候。夕方尼ヶ

崎世子被爲出。尤御足指御痛少々、軽く相成申候。尤尼崎

世子先月^(ハシ)之代日也。夜九時前御帰館。勘助在宅。道

具しらへ、虫干等未濟。原長川見舞。今日ニ而菓断申候。

三日 朝曇り。昼^(ハシ)快晴。暑甚シ。

大人御機嫌克。濱町^(ハシ)と御出有之候。八半時比御帰館。夕

御在宿。勘助、小幡、兼約之処、世子虫歯積氣ニ而御断

參候。依^(ハシ)而在宿ス。虫ほし未濟。昨日、原長川、駕籠

者申候は、今日ハ處々廻り候故、酒代少^(ハシ)青

銅三百文遣申候。長川^(ハシ)と貳百五十文が干菓子調^(ハシ)〇〇今

日、万藏掃除ニ来ル。赤小豆五升位、黒さくけ二升位、茄

子五百位、丸漬瓜、白瓜両方ニ而三十位納申候。^(ハシ)〇

四日 朝曇り。昼^(ハシ)快晴。暑甚。夜蒸シ甚難儀。

大人御機嫌能御在宅。勘助、松平求馬介殿^(ハシ)と暑中^(ハシ)

會以來初^(ハシ)而參り申候。夫^(ハシ)柳生世子^(ハシ)と參り稽古有之候。

是^(ハシ)暑中以來初也。今日、西良仲老^(ハシ)と使遣、當七月

中元^(ハシ)通り、今日諸口紙^(ハシ)束被遣候。但シ、當春以來

腹薬二十貼、膏薬五貝位呉ひ候。其上、叔母君御腹薬被

成度義申入候。大人^(ハシ)と御手紙被遣候。且、勘助參り面談

ニ而申入候。良仲申候、此節幸新堀保料老候御積氣ニ付

隔日ニ見舞故、今夕御見舞可申旨、被申候。今日、良

仲使之序ニ柳生^(ハシ)、板倉伊兵衛先月昇進致シ、用役^(ハシ)

年寄添役被申^(ハシ)。依^(ハシ)而祝儀として鯉魚中一尾被遣

候。虫干未濟^(ハシ)。夕、良仲老被見舞、薬五貼被至

候。

五日 天氣相如昨日。暑氣甚、此節病人多シ。

大人御機嫌克、今日深川小新次公子(ハシ)に御出。是又暑中
□(ハシ)以来初而也。夫、渡邊老候に御出、夜七ツ時比御帰
宅。勘助、麻田公子如例。深川小新次公子に御殿向御
普請ニ付當□(ハシ)又、休會致候由也。仍而今日御出
而已ニ而以後暫御休會。

六日 天氣如昨日、暑漸、甚敷、朝大霧。□(ハシ)

大人、御機嫌克御在館。勘助、生実侯如例。帰路一本
松山崎君に參上之処、山崎君全躰當六月十三日御暇被

仰出、御出駕之処、御不快ニ付段、御延引。今□(ハシ)相勝
禮ニ仍り當暮極月迄も御滞留之御願被仰上度由也。(オ三)

勘助、全禮残暑見舞、御不快之様子承旁、參り候処、右之
次第。新海清右衛門逢申候。尤、清右(エ門)に當月十□(ハシ)

出足致候様被申付候と也。夫、婦り在宿。
家兄御宿。虫干餘り、諸道具取片付今日ニ而相濟候。

七日 朝、晴。大暑。此節一向雨氣無シ。處、水きれ。
大人御機嫌克、岩村侯に今日(ハシ)又、七日ニ被成、暑休、

以来初而御出被遊候。朝四時前御出。夕八半時比御帰

宅。夫、七ツ時、福田平平大夫に御出被爲成候。但、是
も暑休以来初而也。福大夫、今日、詩經集注ニ而本文亦
御講初□(ハシ)。元之助様御在宿。勘助、金森公子暑休以
来今日、例之通り初マル申候。御素讀、今日、初マル。
但、當年ハ閏月(ウ三)有之候間、今月、相初メ申候。

例年ハ今月朔日(ハシ)也。

八日讀書 朝、快晴。秋暑蒸氣甚。
大人御機嫌克。今日尼洲世子御断。右は明日尼崎侯

松平(ハシ)御在所に御發駕ニ付也。是之処七日也
遠江□(ハシ)御在所、御發駕ニ付也。今朝大村信濃守侯御用
人、本田章(ハシ)文卿氏物故之爲知手紙、子息元藏氏(ハシ)

来。書面ニ今朝辰刻頃、章三義病氣之処、養生不相叶死
去致候由也。因而 大人昼前(ハシ)に御出御座候。遂ニ送
葬之御積之処、出葬は夕七ツ時、寺ハ廣尾光善寺也。然

處章三兄、小笠原□(ハシ)藩直參り致せ話、會葬は達而断申
候間、八半時比御帰□(ハシ)。夕最上邸に御出。是も暑休以

来初而被爲入候。今日、元之助様、富士山に御帰後、初
而御出有之候。今日は(オ三)品川東海寺に白金武藤様(ハシ)

御出。但東海寺ハ兼而上方之大順和尚招饗致旨ニ而、交

代も段々近寄候間、近日弥日限ッ極メ御招申上度義申入

候處、和尚も此間ハ處々被招、セ話敷有之候得共、格

別之方故、當十五日参度由也。於宅ニ而ハ手狭、其上病

人有之故、芝田丁六丁目米店ニ而萬屋新助と申者之別

宅、濱邊ニ有之閑居を借用致、是ニ而饗度段申入置候。

今日小林院御参詣。妙解院、秋暑御見舞被仰入候。勘助

在宿。西良仲、夕方被見舞候。服薬粉薬呉候。

九日 朝晴、暑甚、昼前ハ段々雲出、風少々強。

大人御機嫌克御在讀書休。元之助様、今日南條志兵衛

ハ(三三)手紙来。同役栗城十五郎病死之処、養生不相叶

昨夜死去致候事知来。因而大人御名代旁々御出被成候。

塚本喜和米氏、御留守居伊藤簇様、稲野鉄之助殿御ハシシ

知寄被成候。夫ハ御帰路、白賁見分ニ御廻り被成、便路

祥雲寺ハ御出、夜五ツ時比御帰。住次御供。是ハ白賁ニ

廻り茄子五六十取寄セ申候。但シ此節遣セ茄子無之候故

也。大人、昼比ハ少々御中暑之御様子也。此節處々ニ病

氣之者多シ。

十日 快晴、朝北風。甚涼、昼前ハ秋蒸旱甚、夜少涼。

大人御機嫌克。今日生実侯御定日ニ付御出。朝四時御

出。昼後八ツ時前御帰。尤暑休以來初也。夕御在館。

元之助様、小幡世子ハ柳世子、例刻ハ御出。但シ小幡ハ

世子(ハ)御不快ニ付岩吉殿、初之助殿讀書而已也。夜御帰

り被成候。(三三)但暑休以來初而御出也。勘助、松平求

馬介殿如例。但朝出夕七時帰。麻田公子断参り候。在

宿。昼過ハ天合あしく風少々出、雲散乱ス。今日、我

善坊谷、龍神氏杯之組中同心弟、盲人ニ而按摩致候。惣

髪元貞と申人有之、裏十公娘子御てふ噂、且セ話ニ而招

キ叔母君之按摩致させ申候。早速参り四時比ハ小巷ト時

按摩致、昼食遣し帰申候。尤此方ハ送迎之人老人付遣シ

申候。万藏、掃除ニ来、茄子三百餘、大麥一斗六升位、

但シ春上之升目也納申候。

十一日 朝北風吹陰り、常雨暫く、昼時々吹懸、雨東風

餘程強シ。夕晴。今日二百十日也。秋蒸甚シ。

夕地震。

御機嫌克。讀書休。今夕暑休以来之御講積初マル。八ツ時ニ相濟申候。夕御在館也。元之助様、勘助在宿。

(三三三)

十二日 早朝晴。食時ニ東ノ陰雲出。南氣甚蒸シ。

大人御機嫌克、今日桜田藝州世子御定日之処、昨夕ノ御

頭痛ニ付御断、昨夜中ニ来ル。因而御在館也。元之助

様、今日、本多千五郎ノ御出。但御出懸、神崎藤馬氏ノ

御たち寄、内談事有之候。夫ノ塚本七左ニ門氏御出。是

ハ先日轉役^(ハシ)徒移、今日初而悦ヒ旁々御出。夫ノ赤坂

御屋敷、宮木元昌氏病死、此際爲知手紙、中嶋周意と申

者ノ来ニ付弔ミニ御出。且大人より干瓢一把被遣候。

但、住次、元之助様御供ニ參。夫ノ青山栗城氏ノ干瓢一

把被遣候。栗城喜平次氏ノ返^(ハシ)来。○今日九時比ノ風北

ノ東ニ廻リ吹懸ケ、雨時ニ強降り、八ツ時ノ段ニ風と成、

七時前甚はげしく屋根ニ上ケ置瓦吹落、東隣^(三四)垣吹

倒シ、處ニ屏、大木吹倒シ、屋根吹剝。以之外嵐雨ニ而

雨は如砂利。暮間雨あがり、日入節又々西風緊しく、雨

大ヒニ降り入夜五ツ時比靜マル。風南ニ成ル。薄曇處ニ

多^(ハシ)月甚晴照ス。勘助在宿。元之助様、風ニ御

逢被、成甚迷惑被成候。朝、元貞見ヘ昼食遣ヒ帰申候。

十三日 朝ノ快晴。南風少々出薄曇。昼過ノ南風緊シ、

甚暑昼一時ハ人難凌也。昨日之嵐處、大ニ荒申

候。

大人御機嫌克。讀書如例。大人、夕、最上邸ノ御出、

暮前御帰館也。元之助様、加茂数右ニ門氏御出。是ハ

暑休以後、富士以来初而御出也。四時半過御出。暮過御

帰。勘助、小幡定日之処、迎人不来、終日在宿。西良

仲ノ薬取リニ七平遣申候。按摩盲人元貞、先夕障有^(ハシ)

断^(ハシ)今日、住次使ニ本田元藏ノ章三靈前と申干

瓢一把被遣候。帰之節、白金武叔ノ内談有之、手紙被遣

候。夕叔御出。是ハ縁談ニ付申合之事也。山崎藩、新

海清右ニ門氏送別之儀被遣候處、最早兩三日以前出足也

ト言、持戻リ申候。西良仲、薬取リニ遣シ申候。

十四日 快晴。秋暑甚敷、朝北風。昼ハ南氣。夜涼。

大人御機嫌克。今夕伯太老侯如例。夜八ッ時比御帰宅。

讀書如例。元之助様、生実侯ハ御出。朝四時御出宅、

九半時御帰。是ハ十六日定日之処、御差擗、今日御出

也。勘助在宿。夕方ニ相成、急ニ白責ハ見分ニ参り候。

是ハ此間大嵐ニ而竹木折候哉と被仰参候。致見分候処、

竹當年生候方二本大ハ八寸まはり、小ハ五寸まはり。〔三五〕折候外、損し被候物

納無之候。今日ハ十公頼ミ、諸野菜精進物調、少々切

理有之候。是ハ明日、東海方丈大順和尚、弥海亭ハ被参

候間、右仕度ニ付甚取込候。且又大順書之一行物表具屋

ニ頼ミ、出来致候間、取リニ遣申候。白金ハ御使彦人

被遣候。是ハ御縁談御咄之御懸合也。

十五日 朝曇り。昼ハ少々晴。八ッ時雨少ッ降。又曇。

雷遠方ニ而一兩聲鳴候。秋蒸甚ッ。

大人御機嫌克。今日兼約ニ付東海大順尊者招筵ニ而田町

六丁目萬屋新助と申米店ノ海亭ハ御出御座候。昼過九ッ

半比ハ御出宅、御帰宅ハ夜四時前也。元之助、勘助帰

宅之節、大人御供致し、出懸候。〔三五〕元之助様四時

過ニ御出、海亭ニ而大順尊者を御待請被成候。勘助ハ

昼過諸料理、夕ニ出候者、且昼食之仕度等調理致、八ッ

時前海亭ニ参り候。但御建た（ハシ）別記ス。大順尊者、

九時前ニ御出被成候。但宰首座、精藏主兩會下僧御連被

成候。御帰夜五時過ニ御戻被成候。右来客ニ付今日ハ讀

書休申候。白金武叔御出。是ハ昨日御内談之御答被仰

上候。正ニ大人御出懸り之処故、御逢有之、御用談大躰

相濟申候。夫ハ直ニ海亭ハ御誘引被成、因而勘助出候節

同道致ッ、武叔御帰、日入之節也。今日朝之内、七平、

酒店矢野ハ式匁五分、酒二升、八間叶茶懸、ゆば調ニ遣

候。尤海亭ハ諸道具等一切持出ニ致候。〔三六〕但ッ鍋、

火ちりん、片口、鉢、雷盆等先ニ而借り申候。小幡世

子ハ十八日御定日之処、今以不快付、御断被成候、使

言。勘、麻田公子定日処、来客ニ付不参候。昨日、ふ

と松平越中守殿御家中、小栗千波と申仁、玄関ニ而名姓

申入、御在宿被爲在候ハ、初謁願度由也。取次人御有と

申候間、大人御逢被遊候。是ハ處、諸先生ハ初謁(ウ)、

其上御詩作乞申候由、御舊作等御書共相願度段申候。

尤、谷麓谷老人、兼々先容可仕候處、私義當月廿日比(ハシ)

〔仕候間、先容を不待、乍失敬參上仕候と也。〕○長嶺

爲藏見へ帰期段々相逼、同当傳ニ付、主用有之候も今日

ニ而先つ相濟、二三日中桜田屋敷ハ引移り、廿日前後(ハシ)

在(三六)〔ウ〕所ハ出たつ仕候と也。○生実藩市原軍之助ハ昨日、元之助

十六日 快晴。秋暑逐日酷暴也。夕遠雷。雨少降。入夜

蒸氣甚。

大人御機嫌克、終日御在館。元之助様御宿。勘助同

様。讀書例休日。西良仲老被見舞候。今朝、良仲老

ハ薬取りニ老人遣候。尤薬加減致由申来候。叔母君先

日以来御容躰同邊之処、御痛ミハ少シ間遠相成申候。御

食事も此間中からに終日取集メ四五盃位也。入夜、海

津俊益老被見廻候。是ハ西良仲進メニ而、俊益存知寄も

承り躰に依り薬可服也ト被申故也。俊益被申候容躰ハ別

記ス。今夕、根本藤吉郎ハ使来。是ハ御内談懸合事ニ

付也。(三七)

十七日 朝ハ暑、曇り、甚蒸熱。昼ハ快晴。夕雷雨。但

シ餘り強クハなし。夜ハ北風。涼し。天風ハ南

ト見、雲吹出、一面に陰り。甚朦々敷相成候。

大人御機嫌克昼迄御在宿。夕、福大夫如例。夜四時過御

帰。元之助様御宿。勘助、米津之金森公子ハ柳生世子

如例。朝四時ハ暮六時過帰宅。讀書如例。根本藤吉

郎ハ使来。昨日之返事也。海津俊益老ハ薬取りニ被遣

候。今日ハ始メテ也。但二貼薬リ申候。本田元藏ハ使

来。右は来ル廿日、章三追善爲メ、於興禪寺集會仕(ハシ)

御揃御枉駕奉待スト也。今夕、神崎藤馬方ハ使遣シ

〔是も御内談用事向也。水野市允ハ鈿衣之銘兼而頼

ミ之処、是又序ニ被遣候。〕(ウ)

十八日 朝ハ快晴、夕雲あり、遠雷兩三聲、夜村雲、四

時ハ月殊ニ明也。○秋暑甚シ。

大人御機嫌克。今日、尼崎世子御定日之処、急ニ御断申

に御出。是ハ此度御縁談ニ付、御面談ならでハ不相濟御出有之候故、前日も度々呼ニ来候間、夕方御出被成候。

勘助、麻田公子参り候。是ハ十五日替日也。讀書如

例。藝州御使来、廿四日御出被下様申聞候。弥廿四

日を御極被遣候。但、十二日御定日之替日也。元之助

様、朝之内最上藩如例。以来三八之日相極、月ニ六度ッ

、大人、家兄御出被成候。

海津俊益
被見舞候。

十九日 朝ハ快晴、秋暑甚、夕七時前ハ雲たち雷聲

(三八)餘程つよし。雨大概降、暮間ハ北風大涼

十六日 シ、夜晴、單衣ニ而甚適ス。

大人御機嫌克御在館。元之助様、勘助同様。万藏掃除

ニ来ル。大麥七升、茄子四百五十納申候、但大麥ハ當年

ハはだか麥と申候を雜兩用ニ致候。海津俊益老_ニ菓取

ニリ住次遣し、序ニ祥雲寺一山和尚ハさゝちん味噌蓋物

ニ入御贈被成候。朝、京僧伊之助稽古ニ来ル。本田元

藏手紙来。明廿日章三追善、於興禪寺、弥相催申候□四

時ハ御出被下様と也。今日、青山根本氏縁談事相定候

間、爲御内祝、御酒被召上候。

廿日 朝涼、單衣ニ而ハ少難凌位也。終日、西北風。昼

間暑漸緊、暮ハ入夜甚時節ニ適ス。

「(三ハ)

大人御機嫌克、今日ハ此間ハ兼約ニ而、本田章三追善爲

メ白金村興禪寺曇華尊者詩會被催、勘助被召連、朝四時

ハ御出御座候。然處、章三悴元藏、九ツ時半過ニ寺ハ見

ヘ、夫迄ハ待合居申候。曇華ハ詩作杯致、禪氣ある僧

也。章三生前甚懇ニ致候と也。御帰ハ夜五ツ時半□□。

但ッ今日參會之者他者ハ龍神数馬、高松藩山崎重水兩人

ノミ也。處々爲知候得共一向不相見候。昼食出し、酒、

吸物一ツ、硯蓋、鉢物三枚斗出ッ。詩題、曇華、觀集

有感以徒看嶺外白雲帰句文聊句也爲題各賦。大人甚御

醉態也。帰路ハ龍神数馬同伴也。住次御供。元之助

様、小幡世子ハ柳生世子如例。西良仲ハ病用ニ付□□_(三九)

御たち寄被成候。稻垣鳥羽候奥様御産後御病死之由、

爲知来ル。當月十六日也。宮崎九助黒田甲斐守
内用人也時候見舞

ニ付、交看籠到来。生実候、今日御定日之處、御断被

遣候。来廿二日、爲御替日弥御出^(マシ)也。叔母君御病狀此節御同邊也。讀書如例。

廿一日 朝涼シ、昼村雲處々あり。夕一面曇リ。入夜少晴。

大人御機嫌克。御講釈、御詩會如例。松本氏^(マシ)使来ル。御縁談相極、申合帳面被越候。今日詩會之節、龍神教馬出席被致候。今日ハ小集也。詩題別記ス。元之助様、勘助在宿。

廿二日 雨、四時比少晴、薄日照シ、至暮雲濃淡也。夜

同

〔三九〕

大人御機嫌克。今朝、金森公子御定日之処、先方^ヲ断参、御出無之、夕生実候御出。但廿日御替日也。元之助様、今日鳥羽侯奥方先日御不幸ニ付御弔訊被成候。夫々本多千五郎如例。朝四時半御出宅。夜四五ッ時比御帰。尤七平一人供、返リニ御連れ被成候。勘助、麻田公子朝之内約之處断申候。夕、松平求^(マシ)馬介如例。七ッ時出宅。夜四ッ時返リ。朝、海津俊益老と菓取リニ遣

候。讀書如例。昼前、俊益老被見舞候。西隣相原松

悦老被見廻候。秋田信濃守殿御家中、渡部裕倫と申医者

参候。尤、御留守故、玄關ニ而申置戻候。右口上ニ此

節在所表^ヲ到着仕、久々御様子相窺不申候間、拜顔仕度

之処^(マシ)〔四〇〕御留守残念奉存候。其内又、参謁可仕と

也。土産トして會津蠟燭二十、鶏卵二十贈上ス。白金村

興禪寺和尚被見、是ハ此間初而先之寺に大人被爲入候

間、右挨拶旁々初参也。本田元藏、大村源太郎^ト使

来。此間廿日之會ニ御出之謝禮也。其節御約被成候鯨肉

二切御到来。今日裏之十太娘、青山山田吉太郎^ト被付

候おい^イく見申候。御膳技割麥并せんへい、土産ニ持参ス。

十太宅^ニ一宿致ス。〇おみな、風邪ニ而薬服申候。

廿三日 朝曇リ、晴々快晴。朝夕甚涼氣、北風。夜ハ晴

陰不定。〇海津菓取リニ老人遣候。〔四〇〕

大人御機嫌克被爲在候。岩村世子如例。朝四時御出宅。

夕八ッ時過御帰被遊候。夕御在館。元之助様、加茂數

右ニ門定日之処、此度御縁談諸事御取斗ニ而御多用御断

被成候。然處加茂氏又々爲ニ人參リ、旦那、末女不相勝、只今ト上邸ト罷出候間御断申上候と使來、終御在宿。勘助、小幡世子如例。但シ世^(ハシ)御不快後、未御稽古無之候。岩吉殿、初之助殿讀書斗也。參懸、西良仲老たち寄。此節、勘助喉腫物出来候間、紛葉吹込候様致度、一貼もらひ申候。右腫物ハ梅核と申候。今日、柳原、細川長門守殿奥ト御使一人被遣候。御讀書如例。

廿四日 朝陰、昼ト陰晴不定、秋蒸甚シ。

御機嫌克。大人今日ハ兼而御約ニ付藝州侯ト例刻ト^(四)御出被爲在候。朝五ツ時少前御出。暮間御帰館。元

之助様最上邸ハツ時ト御出。帰懸^{伊藤源吾氏内談ニ付御寄}勘助在宿。

○叔母早瀬様^{御稱氣ニ付}昨日鍼治致シ海津俊益頼ミ、松山檢

校參候。尤鍼リハ一時之凌ニ致候心得也。先試ニ致候

處、當分氣分開、夜ニいたり兩度大通有之候。今朝海

津葉取ニ老人遣候。岸田九十九氏參候。是ハ來廿七

日、旦那供ニ而大坂表ト弥出足^キ致候間、一寸御暇乞ニ參

上仕候。態^(ハシ)麗^(ハシ)出ス。昨日夕、万藏ト詔置候水荷桶

兩ツ出来。持來候^(ハシ)物別記ス。讀書如例。

廿五日 朝は大霧、昼ト快晴。秋暑甚シ。夕方通り雨少

降。夜北風大ニ出、嵐めき成雨降^(四)。

大人今日御痔疾氣ニ被爲在候。御葉ハ不召上候。今日ハ

夕方、田町久留嶋出雲守侯ト御晦乞ニ御出被爲在候。尤

久留嶋侯、明後廿七日大坂表ト御發駕也。是ハ今般大御

番頭役被 仰蒙候故、穗谷丈右ニ門氏、岸田九十九、林定

五郎等御供故不殘御出被成候。尤輕少之驢^(ハシ)丈右ニ

門氏ト扇子二、九十九氏、定五郎氏ト祇園香煎被遣候。穗

谷宅ニ而暫ク御上リ御咄等被爲成、夕七ツ時御出宅、暮

間ニ御帰被爲成候。元之助、終日御在宅。勘助、麻田

公子如例。夕方^(ハシ)松山檢校被見、鍼治致候。今朝、海津

葉取如例。今日西久保富田屋ト申道具屋參、元之助様御

懸合被成候。是ハ此度百人町御縁談ニ付、色道具等用

向被仰付也^(四)。今日勘助、夕方龍神數馬氏詩盟ニ參

り申候。但シ毎月廿五日ニ御座候ト也。此間、數馬氏始

宅之詩會ニ見ヘ候節、堅約有之候間、無據罷越申候。夜

五ッ時帰宅。讀書休。

廿六日 朝小さめ降り、昼ひ雨ハ休陰る、涼甚ッ。

大人御痔疾段御快。夕尼崎世子の御出。夜九時前御帰。

元之助様、生実侯如例。九時後御帰。勘助宿。讀書

如例。昼時、西良仲老被見廻候。暮間、海津俊益御子

息被見舞候。長嶺爲藏より使來。明後廿八日出たつ仕

候。乍然風邪ニ而引込罷在候間、御暇迄ニ上リ不申候と

也。鯉節十五、焼酎一壺投來ス。〔四二〕叔母君此節昼

夜不限御疼、看病人交りノニ夜分奥キ御介保致し候。

夜ハ別而強ク御疼ニ被成候。

今日、百人町の使被遣候。是ハ此間先ヨ来簡之御報ニ而

御坐候。尤此度は元之助様諸事御懸合故、萬事名書（ムシ）□等

皆元之助様也。御使七平相動申候。万歳來、茄子五百

六十式、青唐からし、紫蕪納申候。

廿七日 朝少、嵐めき、昼比迄時々雨降、北東風強ク秋

蒸甚ッ。八ッ時比ヨ漸々晴、夕快晴、入夜陰晴

不定。

大人御痔疾疔と不被成候。今朝岩村侯如例。夕福田大夫

如例。夜四時過御帰館。元之助様御宿。勘助、金森公

子如例。今朝海津俊益老の葉取りニ遣申候。今日、伊

東（四三）侯藩長嶺万藏、同爲藏、家永甚五兵衛、同息幸

七、日向表在所ヨ出たつ致候。右ニ付兼々爲藏頼至候。

大人御染筆物家兄の頼、実名并字共取揃、夕方御使被遣

候。守永幸七、爲暇乞見舞申候。きくらけ一包呈上

ス。但シ伊東侯藩ニ而ハ妻子引連候而、十年十六年と申

江戸勤番ニ參候也。此度も伊東侯ヨ先年九鬼長門守殿御

□（ムシ）御嫁シ被成候。當時御□婦ニ而御隠居之御方の長

嶺、守永兩人附人ニ江戸の妻子引越シ勤番致候處、右御

隠居様、當夏御不幸、日向表の婦郷致候也。爲藏、三年

以前ヨ入門致シ不断出精致候。今朝久留嶋出雲守殿、

大坂表の御發足被成候。今日、下谷武田辰五郎、時候

見舞被見候。昼食出、酒出ス。并供者の仕度出ス。讀書

如例。

〔四三〕

廿八日 終日秋暑甚ッ。夕東北風起、微雨降、大曇リ、

一 躰今朝の晴陰不定。

大人、御機嫌克御在宿。元之助様御宿。勘助同断。今日ハ百人町根本氏之比丘尼隱居惠林院、此度御縁談段々整、親類書取かわし申候ニ付、今日持参致候。其外色々談合事致、先大躰ハ相極申候。夕八ッ時過見へ、暮間ニ戻り申候。酒、吸物^{〔ムシ〕}。硯蓋物、夜食、菓子出ッ申候。并供之者ハ夜食、酒出申候。十公終日頼ミ働申候。委クハ別記有之候。○今日、青山稲野鉄之助様、御病人様御見舞御出被成候。菓子出、夜食振舞、七ッ時半比御帰也。今日海津俊益子息被見、父俊益、此節時候病ニ而急ニ快氣致兼候間、當分私御薬指上度候。但シ御思召御座候へ、御轉薬被成候とも、此處無御遠慮御勝手次第と申事也。答ニハ病人存寄も御坐候得共^{〔オ四四〕}今日之御薬方にてハ至極亘敷御坐候間、先御薬御もらひ申度御申候。今夕、舞岡村吉右衛門様御出被成候。尤此間田舎御出、今日御一宿ニ而明日御帰里也。御出懸も御一宿也。讀書如例。

廿九日 朝雨、こさめ也。昼ハ雨休ミ。秋陰厚シ。終日

冷氣甚。夕ハ雨。入夜微雨、秋霖也。

大人御機嫌克終日御在館。元之助様、朝之内最上邸如例。勘助、夕、麻田八子如例。叔母君、昨日ハ御吐、御休ミ御痛斗也。海津子息、六君子湯濟并別煎あり。委細ハ別記ス。今朝、舞岡様、藤馬様御帰り被成候。夕、下男住次、國元母中風之由承り候間、今晚宿ハ参り様子承度、一宿之御暇願ニ付被出候。明朝戻リ之筈也。升屋ハ申付候、此度御姉様御片付之節^{〔ムシ〕}前夜衾沓ッ持来ル。其外買物色々別記ス。京僧伊之助稽古ニ^{〔オ四四〕}見へ申候。今後海津俊益老ハ御薬取りニ遣申候。

八月 大

朔日 終日村雲。昼ハ好晴、秋蒸甚、風ハ北ニ而少涼シ。

大人御機嫌克。元之助様、勘助在宿。今日八朔御儀式、朝野不相交有之候。夕、松山檢校被見候。海津、御

棄取^(アセ)無し。今朝住次辰申候。是ハ昨日一宿暇遣、宿ト

へ参候ニ付也。例日御講書ハ八朔ニ付御延引也。例年

如此。高橋仙益、先の詩盟
主人ニ付せ話致候故

二日 朝曇り、昼ハ快晴。夕七時比ハ急ニ曇り。北風大

六日 ヒニ起、黒雲たなひき冷シキ天氣、夫ハ大涼

シ。風暫して休、不雨。

大人御機嫌克、今朝金森公子、夕生実侯如例。但生実ハ

先月晦日無之故、今日御替日也。元之助様、神崎藤馬

氏ハ本多千五郎、稽古如例。但シ神崎ハ青山百人町御縁

談ニ付(四五)御面談可成事有之候故、御出之処 留守ニ

付手紙御認被成、内儀ハ御逢暫ク御咄被成、直ニ本多氏

ハ御出有之候。夜九時比御帰。勘助、松平求馬助殿ハ

柳生世子如例。今日ハ板倉伊兵衛、轉役後又ハ出席致

シ、夜五ツ時帰宅。白金武小太郎様御出被成候。早瀬

様御病體御尋、且此度御熟談ニ付御嫁女^(メ)ニ為(シ)花向、

縮緬小袖尅ツ御贈被成候。海津玄畏老被(メ)舞候。其

節兩三日ハ叔母君御容體大分御快方御食(メ)御勸ミ被成

候。讀書如例。海津氏と深
取如例。

三日 朝微雨、四時比ハ快晴、終日好秋日、大ニ涼氣

也。

大人御機嫌克、今朝岩村世子、夕最上邸如例。暮間御帰

館。元之助様、加茂氏如例。夜四ツ時前御帰。勘助、

小幡岩吉殿、初之助殿如例。道具屋来ル。安(メ)腹器持

来。(四五)夕勘助、柳世子如例。尤先月一度不来ニ付連

日参候。

四日 終日曇り、時々雨降り秋冷、人々複衣ニ而凌也。

大人、御機嫌克御在館。元之助様、勘助如例。讀書

休。今朝梅津氏ハ菓取リニ遣申候。今日ハ別煎無之。

且朝鮮種人參入申候様申来。然處、廣東人參一匁御入被

成候。十太、此節時候威候處未快。但元之助様御菓被

遣之候。伯太(メ)御使被遣候。右ハ先日御断之節、替日

ハ自此可申旨被仰遣候間、今日替日之事被仰遣候。右代

日五日、六日被仰遣候。宇田川源四郎、神谷(メ)町長

兵衛、竹下ハ使被遣候。昨夜御病人様余程御疼被成

候。

五日 朝晴天、甚秋冷、此節庭、前之萩花満開、内ニ未

ニ相成モあり。

大人御機嫌克、今夕伯太老候御出。但御替日也。七ツ時

御出。(四六)夜九ツ時帰館。元之助様御在宿。勘助、

麻田公子如例。但シ昼之内九時ト一寸麴丁加賀屋ト長銀

拂ニ参申候。青山百人町ト御使被遣候。海津元畏老被

見舞候。松山檢校被見廻候。但シ松山は、此節叔母君

之御病體躰宜ハ不宜ニ付御見合被成度段、元畏ト被仰候

處、元畏未達候哉、今日相見申候。此以後、先日様子次

第ニ而御申遣由申候間、先當分不参トと存候。万藏名代

ニ万藏女房ノ弟掃除ニ来。但茄子三百納申候。

六日 朝晴、四時比ト村雲、昼過雲甚敷黒、七ツ時雨、

入夜不休、冷氣甚シ。

大人御機嫌克。終日御在宿。元之助様御在宿。勘助、

生実侯如例。八ツ時前帰宅。今朝海津氏ト菓取如

例。(四六)御讀書如例。尼崎藩三人名前別記入門致シ

酒肴献ス。万藏妻弟掃除ニ来ル。岡村百之介見へ、先

日御噂ノ玉川新井宿御同行之儀、此節申遣候間、廿日前

日極可被成由申候。西隣垣ノ柳揃伐、裏ト指木

ニ致し候。

此節叔母君御容體、御疼輕ク吐モ少トニ而、御病勢漸

々かるき方也。

七日 朝曇り、昼時ト快晴、秋氣冷甚シ。

大人、御機嫌克、岩村世子如例。御出八ツ時、御帰七ツ

時比、福大夫御出、夜九ツ時前御帰。元之助様御在

宿。勘助同断。海津子息見舞不申候。今朝御讀書如

例。

八日 快晴、北西風甚シ、秋冷逼肌、薄穂大ヒニ出、似

季秋。

大人、御機嫌克、夕尼崎世子如例。夜四時過御帰館。

元之助様、最上邸夕八時ト御出如例。勘助、赤坂之氷

川盛徳(四七)寺ト夕八ツ時ト参申候。右は渡部又蔵姪

稻垣長門守殿荒川松貞娘春女十歳、書画會ニ付被招候。大會

暮前戻申候。扇子二本、詩作一首贈申候。今朝、海津元畏と菓取りに遣申候。五服来。御讀書如例。柳原早瀬様御召使之下女、三夜宿リ申候暇願ニ而、今日被遣候。尤家来七平送人ニ遣申候。今朝道具屋西久保富田屋參申候。

九日 快晴、秋冷、大募申候。

大人、御機嫌克、今日も青山御屋敷始、但暑中御休以来始メテ今日も御出也。元之助様御同道如例。讀書休。

御病人様一昨夜又々御疼強く、昨日終日御不出来。夜

分も御□有之候。

海津子息被見廻候。栗城喜平次

氏右喜平次ハ十五郎養子也。十五郎先日不幸ニ付志之内とて到来ス。

□むし来ル先日不幸ニ付志之内とて到来ス。

□(四七)

十日 朝曇、昼時晴、暑色未消、夕村雲、入夜雲まばら

ニ降。一體ニ蒸あつし。

大人御機嫌克。朝生実侯如例。但ッ御帰路、生実侯□

夫京僧氏の御たち寄被成、暮間ニ御帰。是ハ八月十

五日□生実侯御在所御暇被仰出候ハ、出たつ無餘

日無之候間、一盃御酒指上度ニ御留られ被成候。元

之助様、小幡世子、夕九ツ時過ッ御出、暮間御帰。尤例

翻編『芙蓉館日記』(一六)

刻朝迎人參候処、今朝神崎藤馬氏被見、青山百人町縁談色、有之、昼時比迄御手間取被成候間、自然遅刻ニ相成申候。柳世子稽古なしとの事也。勘助、麻田公子夕八ツ時暮間稽古致し候。但、今日迄ニ而先暫三両會休也。是ハ当十六七日比、麻田侯大坂加番ッ御帰リ御着ニ

付、取込故、先暫休ムト也。斎藤伴右ニ門參上。□(四八)

右は先日私出府之節、元之助様、勘助様御出被下忝所、

彼是御無音申上候故也。半切紙一包持參ス。皆々他出ニ

而申置而帰候。今日京橋金六町ハ長持二棹、重篋司一

重、手たんす一ツ取リニ遣申候。右は百人町御縁組入用

之物也。家僕朝一人、夕兩人遣申候。

十一日 朝薄曇、昼時ハ好天氣、秋晴如畫、夕村雲。

大人御機嫌克。今日御講釈如例。夕御在館。元之助様

御宿。勘助、松平求馬介殿ハ夕八時前ッ參。夜五ツ時

過帰宅。藝州ッ御使来。弥明十二日朝五ツ時ッ御出之

約、猶又申来候。本田元藏氏ハ亡父章三三十五日忌日

ニ付白餅来。青山御田藩中ハ十五夜之詩作處、ハ點添

ニ来。夕方 大人御勝見也。尤、藝州世子御需有之候故、(ハシ)出との事也。(四八)七平、米津を扶持方取函申候處、未不出。空手ニ而帰候。

十二日 朝少雨、四時比ハ晴、淡陰、秋蒸甚。

大人御機嫌克。今朝五時ハ藝州上邸を御出如例。御講釈有之、世子御居間并御詩作諸應手詩作、御直し、彼是御間取、暮過御帰館。但シ今朝町駕籠御迎來ル。住次御供相勤申候。元之助様、本多千五郎如例。夕八時比御出、夜七ツ時御帰宅。但今日ハ同藩平木三左ニ門、近ニ国元ハ出たつニ付、今晚右之人ハ御酒持參、終宵盡飲也。勤助、米津金森公子ハ定日ニ付參候處、未風邪ニ而不被見、至今朝俄ニ断申來故、先生御断間ニ合兼候由、小習性磯矢三郎、則申出候。甚氣毒之様也、夕八ツ時比ハ東海寺上方ハ(ハシ)致候處、幸大和尚御宿ニ而彼是ト雅談相催、夜食出テ夜帰宅正九時也。御読書如例。今朝根本比ハ手紙來。何れも御熱談、萬事懸合、其上此間神崎藤馬氏見へ申候節も、返書參申候。御

即答無之。塚本七右ニ門氏ハ交魚二尾、沓籠到來。

右ハ先日転役之節有祝遣候間、爲挨拶被贈也。

十三日 曇り、時々雨り、秋蒸甚、夕南風、雷声遠く聞

ゆ。

大人御機嫌克。夕最上邸如例。暮過御帰。元之助様、

加茂數右ニ門氏を御出之處、雨天故御不參、御在宿。昨

日根本氏ハ來手紙、返落致候。右ニ付終日御勝見。勤

助、小幡ハ柳(四九)生世子如例。暮五ツ時帰宅(尤來十七日進門歸様一)

周忌也。箱野鉄之助様ハ白蒸

十四日 曇、段々快晴。夕復曇、夜陰晴不定、昼比ハ西

北風大ヒニ出、甚つよし。入夜少休ニ。

大人御機嫌克、御在宿。元之助様御在宿。勤助、夕白

金武叔君を參申候。右は來十六日根本氏頭を願書出、昼

時納結被越候旨、爲被知申候爲メニ參候也。今日柳原

鎌倉岸豊嶋屋ハ酒一樽調ため、住次遣申候。暮間帰申

候。豊嶋屋酒十五日朝持參也。

十五日 曇、夕晴、入夜陰晴不定、五ツ時過ハ大分好、

霽景例年之月見も甚好ッ。

大人御機嫌克。夕長谷川君の例年之通り御月見如例御出(オ五〇)被遊候。尤勘助御伴仕候。夜八ッ時帰宅。席上、童園見居申候。但奥座敷也。今日、白金武叔御出。但御上屋敷御登城御帰懸也。但御縁談之御用事も有之候。今日根本氏も使来。右は明十六日納采、且願書差出申度、兼而御約申上候処、無據用事ニ付延引致度旨申来。御返答ニは彼是繕合仕度等致し候間、達而明十六日ニ致度申遣置。尤明朝返答取リニ遣可申様申置候。本多千五郎殿の女中(ムシ)物看板等借リニ遣申候。塚本氏に使被遣候。是ハ奉書紙もらひニ遣申候。藝州世子御頼ニ而、大人中秋之御作被遊、夕暮復道曳と(ムシ)遣申候。今日、大人御夜御出被興、御月見ハ明十六日ニ相延し申候。尤、當日(ムシ)躰之御月見有之候。

十六日 雨、涼甚、時々休、復雨申候。

大人御機嫌克、御在宿。元之助同様。神崎藤馬氏被見候。百人町御用談有之候。微酒出申候。今日早朝、根

「(オ五〇)

本氏に使遣申候。但ッ昨日之返書取リニ遣申候。返事參、昨日之被仰下、何分今日ニ結納被成度由被仰下候得共、無據用事ニ付、今日之處ハ達而御断申上候様申来也。白金武叔君、七三郎使ニ被遣候。右は今日お貞様御金御付被成候内祝致し候付、金親ニ白金之におこ様御頼ミ申候処、早速御承知被成候。御金并筆、はながみ三品參申候。野上欽助方に使遣申候。尤今日結納ニ付挨拶人、頼ミ置候処、延引ニ付断り申遣候。朝飯後ニ遣候処、四時半過辰申候。甚手間取申候。今日おてい様御齒黒初付、御内祝ニ付赤飯、御煮物、御酒、御吸物出来候。

「(オ五〇)

今日青山御定日之処、此間倉西貞之進氏(ムシ)に今日結納くり上り候旨、内ニ被仰候故か、御小姓頭もなにとなく御断申来候。然處、百人町も昨日断申来也。京僧八左(ムシ)門氏も今日結納と申事承り候間とて生着一籠到来。夕八左(ムシ)門氏入来被致候。勘助、夕買物ニ出ッ。但ッおてい様諸入用道具也。今夕御月見有之候。例年之通り、島

たい鉢肴杯出ス。但シ當年ハ前文の通り御内祝も有之候間、例年より少々、暉鮮等數有之候。夜九ツ時過御筵相濟申候。御病人様、夜半過御疹被成、甚緊敷曉方吐も有之候。今日白金と赤飯祝供被遣候。讀書休。

大人八ツ時比御風邪之御氣味、御腹合あしく便血出、御氣色あしく被爲在候。此夜、御月見甚冷氣、誠ニ九月十三夜と申氣色。

十七日 快晴、甚冷氣、昼ハ少あつし、人々朝夕ハ綿入ニ而適ス。
〔(五二)ウ〕

大人御風邪御便血ニ而御氣色あしく、今日、稲野三左門殿法寺於法安寺、法事追善執行有之候。右ニ付、蓮淨院大人、元之助様御同道ニ而朝四時御出宅。御會寺被成候。御服代黃晒御帷子、麻上下、御供老人、御香奠銀

子沓包、元様御香奠、良線香三包足付臺也。御付法事之心ニ而別段南鐮一片、法安寺御被遣候。寺ニ而法事済、非時食出ス。酒菓子ハ無之甚略也。尤南鐮被贈候ニ付、塔婆一本たて候と被仰候。八ツ時比御帰宅。元之助様ハ

直ニ自夫日箇久保生実候と例之通り御出被成候。尤是ハ昨日之替日也。夕七ツ時前御帰宅。勘助在宿。大人御帰後、御心持あしきニ付、不換金沓服煎ッ上ケ申候。夕七時比、福田左平殿と御例之通り御出被爲在、夜九ツ時御帰館。御病人様夜中御疹兩度、御吐被成候。及深更甚つよく御疹被成候。今朝海津氏と菓取りニ遣申候。〔(五二)オ〕御讀書如例。

十八日 朝薄陰り、昼比快晴、冷氣甚シ、秋葉ごんげん井華水供申候。

勘助ム。

大人御風邪ハ少々御快被爲在、御便血ハ御同篇也。御菓不召上候。今日尼崎世子御定日之処、昨日御眼氣ニ付御断来、終日御在館。元之助様最上邸如例。勘助在宅。今朝西良仲と使遣候。是ハおみな舌上黒駄あり、小腫物出来、飲食甚こまり、其上御病人一昨夜つよく御疹ニ付、旁々見舞之事頼入候。讀書如例。今晚伊藤れい松院婆々様被見へ、此度百人町御縁組、御當日諸仕付被教候。夕方七平私用ニ而暇乞出、夜四時辰申候。

御病人様今朝四時比御快方、疼も甚くつろぎ申候。

十九日 晴、夕少ニ陰、入夜微雨。

大人御機嫌克。青山御両方様如例御出(ウニ)夜四ッ時

比御帰宅。勘助在宅、夕方富田屋ニ参り、道具類相談

致候。野上欽助ヲ婚姻餞別として多計奈賀紙十枚進上

仕候。讀書休。

廿日 天气好、秋冷適人。

大人御機嫌克。夕方伯太老侯如例。夜九ッ時比御帰。

元之助様小幡世子、柳生世子御定日之処、昨夜御病人様

御疼強く、其上御婚姻御結納、明後廿二日弥進上可仕

旨、青山根本氏ヲ申来ニ付、旁々御用事有之、今日ハ終

日御在宿。二軒共御断被成候。勘助、八渠堀松平求馬

介殿故障ニ付断来ル。根本氏ヲ手紙参り、明後廿二日

御結納差上度由申来。承知致候由、御答被仰遣候。(オ五三)

廿一日 陰晴不定。秋蒸、木之子類可出気味也。

大人御機嫌克。御講釈如例。唐詩選御休、御詩會如

就書

例。席上、宿題別記。元之助様、勘助在宿。

廿二日 曇り。疎雨、昼比少シッ降リ夕晴。

御機嫌克。今日御結納ニ付、挨拶人として野上氏欽助

頼ミ申候。昼九ッ時根本氏ヲ結納品ヲ五種来。宰領付釣

臺一荷也。委しき事ハ別記ス。右ニ付赤飯蒸少祝有之

候。尤他蒸物くはりハ無之候得共、傍(ア)鳴(エ)門氏、

伊藤源吾殿は格別懇意ニ致候間、今日直々蒸物結納品

(ア)裾分致使出申候。讀書如例。

廿三日 朝曇。昼ヲ處々晴間あり、西北風出、甚つよ

し。(ウ三)入夜少ッ、休ミ申候。

大人御機嫌克。 (以下白紙)

(五四ウ)五五ウ 白紙

十月 十四日晴 加茂

十五日 晴、此節朝ヲ寒威甚敷、風霜不堪。

讀書如例。大人御在宿。元之助同断。白金ヲ叔見へ

被成候。上州たはこや友右ニ門来ル。予カ分ハ六斤半

分、六斤半ト七斤半也。御奥之分、六斤半ト七斤半、尤不揃、五十目ツ、之まけヲ此上ニ入而也。外無事。

十六日 快晴、寒甚。

青山如例、今日片羽茂十郎 出席也。夜五ツ半時少過ニ帰ル。今日中の

亥ノ日故亥ノ子もち出来申候。爐初而ひらく。清水助左エ門の人遣ス。左傳林註一本借入。百人町根本の人遣ス。惣もやうの事ニ付而也。

十七日 快晴

讀書如例。大人小幡侯と御出被成、七ツ半時過御帰宅。福田と御出之定日之所(五六)火事ニ付御出無之候。

昼九ツ半前も西ノくほ八幡前も出火ニ而一町以(六)焼失。

初風悪敷不揃仕廻申候。八ッ過しつまる。所々見舞来ル。

十八日 晴、寒甚。夜四ッ前地震少シ。

讀書如例。大人、昼後八ッ半比も尼ヶ崎如例。夜四ッ過御帰宅。元之介昨日之火事ニ而大ニかたつけ等有之、最上邸断し而来ル。廿一日替日申遣ス。

十九日 晴、寒甚。

青山如例。夜四ッ時帰ル。今日根本藤左(ハシ)廿二日(ハシ)

又舅入之事申遣ス。弥之由(ハシ)。

廿日 天氣、寒甚。

讀書如例。予、小幡と參、夫と奥殿侯と參ル。夜四ッ過帰。是ハ昨日申 来ル故參ル。大人御在宿之所、十二日代り今日藝侯に

御出被遊、暮過御帰宅。

廿一日 曇

「(五六)ウ

御講釈如例。今日詩會無人差合ニ付、本月廿五日、子述宅送別會ノ内と相移致申候。大人御在宿。元之介、十八日之代り最上邸、白金と人遣申し遣ス。福田大夫に断遣ス。

廿二日 曇、夕も晴、南風暖也。

讀書如例。大人御在宿之所、朝根本爲智入參ル。引續キ大人白金叔御同道ニ而八ッ時も百人町根本方と被爲入候。元之介、熨斗當日着用、當日先方も三本入扇子はこ持參。此方御兩人同断。引出物扇子箱くり候。白地ニ臺

